

道央自動車道

北広島管内南地区舗装補修工事

特記仕様書

令和6年8月

東日本高速道路株式会社 北海道支社

北広島管理事務所

## 目 次

1. 工事概要	1
2. 適用する共通仕様書	1
3. 監督員及び主任補助監督員の権限	1
4. 配置技術者に関する事項	2
5. 工事用地等に関する事項	3
6. 関連施設その他との関係	3
7. 作業日及び作業期間に関する事項	4
8. 週休2日工事	6
9. カーボンニュートラル試行工事	8
10. 関連工事に関する事項	9
11. 工事費構成内訳書に関する事項	10
12. 工程表及び履行報告に関する事項	10
13. 貸与品に関する事項	11
14. 保安に関する事項	12
15. 環境保全に関する事項	15
16. 建設副産物に関する事項	16
17. 補完検査に関する事項	18
18. 部分使用に関する事項	19
19. 現場環境改善に関する事項	19
20. 工事用プレートに関する事項	20
21. 工事変更等検討会の設置	20
22. 道路構造物点検の実施	20
23. 工事細部に関する事項	21
24. 割掛対象表の項目に示す工事の内容	44
25. 補足事項	45

様式－1	不動産貸付申請書
様式－2	取得報告書
様式－3	工事費構成内訳書及び工程表の提出について
様式－3（別添）	工事費構成内訳書
様式－4	工程表
様式－5	工事工程報告
様式－6	間接工事費計画書の提出について
様式－7	間接工事費の増加費用に関する協議書
様式－7（別添）	変更間接工事費計画書
様式－8	間接工事費の増加費用見積書
様式－9	間接工事費の増加費用同意書
様式－10	カーボンニュートラル施工計画書
様式－11	創意工夫・社会性等に関する実施状況
別添－1	低速プロファイラの運用に関する補足資料

## 1. 工事概要

### 1-1 工事名

道央自動車道 北広島管内南地区舗装補修工事

### 1-2 道路名

道央自動車道

日高自動車道

### 1-3 工事箇所

道央自動車道	自)	北海道室蘭市崎守町	(KP S 120.2)
		(緯度 42° 23' 14" , 経度 140° 58' 13" )	
	至)	北海道千歳市泉沢	(KP S 35.3)
		(緯度 42° 48' 43" , 経度 141° 37' 16" )	
日高自動車道	自)	北海道苫小牧市字植苗	(KP 0.0)
		(緯度 42° 42' 35" , 経度 141° 39' 7" )	
	至)	北海道苫小牧市字柏原	(KP 7.9)
		(緯度 42° 40' 20" , 経度 141° 44' 16" )	

### 1-4 施工地域区分及び間接工事費率適用区分

本工事の実施工場所の施工地域区分は以下のとおりである。

- ・2車線以上（片側1車線以上）かつ断面交通量が5,000台/日以上的車道において車線変更を促す規制を行う場合の工事
- ・市街地部（D I D地区及びこれに準ずる地区）が施工場所に含まれない工事
- ・本工事の間接工事費率適用区分は「修繕」、工種区分は「舗装」である

### 1-5 コリンズへの工事概要及び位置情報の入力

土木工事共通仕様書1-54「コリンズへの登録」について、位置情報及び工事概要の項目には、

特記仕様書の1-3工事箇所の記載内容を入力することとする。

## 2. 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）は、令和6年7月版とする。なお、共通仕様書に記載された適用すべき諸基準については入札公告時点の最新版を適用するものとする。

## 3. 監督員及び主任補助監督員の権限

### 3-1 監督員の権限

契約書第9条第2項の規定に基づき監督員に委任した権限について、共通仕様書1-6-1「監督員の権限」の規定に次を加えるものとする。

- (16)「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号)第12条第1項の規定に基づく説明先及び同法第18条第1項の規定に基づく報告先
- (17)本特記仕様書25-5の規定に基づき行う工事費構成内訳書の提示、実績変更対象費の増加費用の協議、決定、通知

### 3-2 主任補助監督員の権限

共通仕様書1-6-3(2)のほか、主任補助監督員に委任した権限は次のとおりである。

(1) 共通仕様書に規定する監督員の権限のうち、下表の事項。

章	項 目	内 容
1-25-1	安全対策	安全教育の提出先
19-3-3	交通規制計画	交通規制工実施報告書の提出先
19-4-3	交通保安要員計画	交通保安要員実施報告書の提出先

## 4. 配置技術者に関する事項

### 4-1 配置技術者の資格

主任技術者又は監理技術者は、次の基準を満たす技術者を専任で配置すること。

- (1) 主任(監理)技術者が、本工事に対応する建設業法の許可業種(舗装工事業)に係る資格を有するものであること。
- (2) 監理技術者である場合は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

### 4-2 配置技術者の工事経験

現場代理人、主任技術者及び監理技術者のうち、いずれかの者が平成21年度以降に元請として完成及び引渡し完了した次の施工経験を有すること。なお、施工経験における従事役職は問わない。また経験を有する者が現場代理人のみであった場合には、その者は本特記仕様書4-1(1)に示す資格を有しているものでなければならない。(共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。)

(工事経験)

高機能舗装(排水性舗装を含む)工事

### 4-3 監理技術者の専任義務の緩和について

- (1) 共通仕様書1-7-3(4)5)に記す特例監理技術者が兼務できる工事は、以下に示す市町村の範囲とする。

《対象範囲》

登別室蘭ICから新千歳空港IC及び苫小牧東ICから沼ノ端西ICを通過する市町村  
(登別市、苫小牧市、千歳市及び白老町)

- (2) 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなったときは適切に工事実績情報システム（コリンズ）への登録を行うこと。
- (3) 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行った場合は、配置期間において施工体制点検等の場を活用して、本特記仕様書 4-3 (2) で提出された内容の確認を行う。

## 5. 工事用地等に関する事項

### 5-1 敷地の使用

- (1) 共通仕様書 1-9-2 「受注者が確保すべき工事用地等」に規定する受注者が使用可能な発注者の敷地は、下表のとおりとする。なお、使用の目的は本工事の実施に限るものとする。

所在地	①登別市中登別町（登別東 I C 管理用敷地） ②苫小牧市字高丘（苫小牧中央 I C 管理用敷地）
敷地面積	①登別東 I C : 約 300 m <sup>2</sup> ②苫小牧中央 I C : 約 400 m <sup>2</sup>
使用用途	①工事用機械の作業基地として使用するもの。 ②工事用機械の作業基地及び汚濁水処理施設置場として使用するもの。
期間	工事開始から工期末までの日とする。 (ただし、冬季休止期間は除く)

- (2) 受注者は、前項の工事用地等を使用する場合には、東日本高速道路(株) 北海道支社北広島管理事務所長に不動産貸付申請書（様式-1）を提出するものとし、敷地の使用にあたっては、別途不動産貸付契約を北広島管理事務所長と締結しなければならない。なお、不動産貸付契約における敷地の使用料は無償とする。

## 6. 関連施設その他との関係

本工事に関連する主な施設及び管理者は、下表のとおりである。

### 6-1 規制関係

道路名	管理者名	摘要
道央自動車道 日高自動車道	北海道警察本部交通部 高速道路交通警察隊	交通規制

なお、高速道路の交通規制に必要な協議については、原則として発注者が行うものとする。

### 6-2 電力・通信施設関係

位置	施設等名	管理者名	摘要
道央自動車道 登別室蘭 IC～新千歳空港 IC	光通信ケーブル	KDDI (株) 東日本高速道路(株)	土工部 路肩 中央分離帯埋設
日高自動車道 苫小牧東 IC～沼ノ端西 IC	メタル通信ケーブル 電源ケーブル	東日本高速道路(株)	橋梁部 地覆埋設及び添架

位置	施設等名	管理者名	摘要
道央自動車道 登別室蘭 IC～登別東 IC (上) S 100. 173K P 付近	トラフィックカウンター	東日本高速道路(株)	土工部 路面埋設
道央自動車道 白老 IC～苫小牧西 IC (上) S 65. 450K P 付近	トラフィックカウンター	東日本高速道路(株)	土工部 路面埋設
日高自動車道 苫小牧東 IC～沼ノ端西 IC (下) 1. 000K P 付近	トラフィックカウンター	東日本高速道路(株)	土工部 路面埋設

### 6－3 その他

受注者は、上記以外の埋設物等を発見したときは、監督員に通知し、その指示に従わなければならない。

## 7. 作業日及び作業期間に関する事項

### 7－1 冬季休止期間

共通仕様書 1－1 3 「作業日」の規定による他、工期内の 1 2 月 1 日～翌年 3 月 3 1 日までの期間は冬季休止期間として、現場の作業を行ってはならない。やむを得ず現場の作業を行う必要がある場合、受注者は作業理由とその施工計画書を監督員に提出し、確認を得なければならない。監督員は提出された冬季休止期間作業確認願の内容を確認後、その結果を書面にて通知するものとする。

なお、受注者の事由により冬季休止期間中に現場の作業を行った場合の増加費用については、すべて受注者の負担とし別途支払は行わないものとするが、監督員が冬季休止期間中の現場の作業を指示した場合の費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### 7－2 作業期間

共通仕様書 1－1 3 「作業日」の規定による他、下表に示す期間は、作業を行ってはならない。やむを得ず作業を行う必要がある場合は、受注者は理由を付した書面を監督員に提出し、確認を得なければならない。なお、この期間に変更が生じる場合は別途監督員から通知するものとする。なお、記載している期間は現時点での予定期間であり、詳細については別途監督員から指示するものとする。

期 間	区 間	摘 要
令和 7 年 4 月下旬～5 月上旬のうち 14 日間 令和 8 年 4 月下旬～5 月上旬のうち 14 日間 (大型連休)	道央自動車道 登別室蘭 IC～新千歳空港 IC	交通規制 を伴う作業
令和 7 年 8 月上旬～8 月下旬のうち 14 日間 令和 8 年 8 月上旬～8 月下旬のうち 14 日間 (夏季混雑期)	日高自動車道 苫小牧東 IC～沼ノ端西 IC	

### 7－3 夜間作業

単価表の項目で夜間作業と指定した項目に関連する作業については、共通仕様書 1－13 「作業日」の規定にかかわらず夜間作業を行うことができるものとする。

### 7－4 昼夜連続交通規制内作業

単価表の項目で昼夜間連続交通規制内作業と指定した項目に関連する作業については、共通仕様書 1－13 「作業日」の規定にかかわらず、昼夜連続交通規制内作業を行うことができるものとする。ただし、昼夜連続交通規制内において、夜間作業を行う場合においては、事前に監督員の確認を得るものとする。なお、受注者の責によらない理由により夜間作業に変更となった場合は監督員の指示に従うものとし、これに要する費用は、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

### 7－5 通行止め等による工事予定

通行止め等による工事の予定時期は下表に示すとおりとするが、詳細な日程、区間及び時間帯等については、現在関係機関と協議中であるため、協議完了後に別途監督員が指示するものとする。なお、受注者の責によらない理由により予定日数が変更となった場合は監督員の指示に従うものとし、これに要する費用は、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

#### (1) ランプ閉鎖予定

道路名	施工箇所	予定時期	閉鎖日数	実施工事
道央自動車道	登別室蘭 I C E ランプ	令和 7 年 7 月上旬頃	9 日間 (7 日間)	本工事
	樽前 S A 上り線 オン・オフランプ 下り線 オフランプ	令和 7 年 7 月中旬頃	各ランプ 3 日間	本工事
	苫小牧東 I C C ランプ	令和 8 年 10 月上旬頃	4 日間	本工事

上表の登別室蘭 I C E ランプの ( ) 内は、休日を除いた実施工日数を示したものの。

### 7－6 交通規制可能時間

下表に示す項目の施工に伴う交通規制可能時間は表中に示す時間内とする。なお、監督員の指示により規制開始の延期又は途中で規制解除（工事中止）を行うことがある。また受注者は、交通規制による著しい渋滞若しくは、そのおそれがある場合や交通の危険及び異常気象時には、監督員の指示により、一時規制を解除（工事中止）する措置を講じなければならない。これらの措置に要する費用は、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

(1) 本線部の規制

作業名等	上下別	施工区間	交通規制 可能時間帯	摘要
昼夜連続作業及び ランプ閉鎖規制作業以外	上下線	工事区間	日出～日没	
昼夜連続作業 (床版防水工施工箇所)	対象区間		終日可能 (設置日から撤去日 まで最大 28 日間/回)	

(2) ランプ閉鎖規制

単価表の項目	施工区間	ランプ閉鎖 規制時間帯	摘要
<div>・ 切削オーバーレイ工</div> <div>・ 床版防水工</div> <div>・ 路面標示工</div> <div>・ 床版上面の断面修復工</div> <div>・ コンクリート除去工</div> <div>・ 縁石工</div> <div>・ 撤去工</div>	登別室蘭 I C    E ランプ	終日可能	
<div>・ 切削オーバーレイ工</div> <div>・ 路面標示工</div>	樽前 S A 上り線    オンランプ オフランプ 下り線    オフランプ	22 : 00～翌 5 : 00	
<div>・ 伸縮装置取替</div>	苫小牧東 I C    C ランプ		

なお、連続ランプ閉鎖規制の閉鎖開始時間は日出～日没の間に開始するものとする。

## 8. 週休 2 日工事

本工事は、監督員と受注者双方が工程調整を行うことにより、週休 2 日を達成するよう工事を実施する「週休 2 日工事（発注者指定方式）」である。

### 8-1 定義

- (1) 「週休 2 日」とは、対象期間において、4 週 8 休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- (2) 「対象期間」とは、次の各号に掲げる期間を除く工事着手日から工事が完成した日までの期間をいう。
  - ① 共通仕様書 1-13「作業日」に規定する 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで及び夏期休暇（3 日）の期間
  - ② 共通仕様書 1-35「工事の一時中止」に規定する工事全部を中止する期間
  - ③ 工事製作のみを実施している期間



- ④冬季休止期間等特記仕様書に規定する発注者が工事全体を施工対象外としている期間
- (3) 「4週8休以上」とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が28.5%以上（8日／28日）以上の水準に達する状態をいう。
- (4) 「現場閉所」とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。なお、降雨・降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

#### 8－2 履行確認（週休2日確保の確認方法）

- (1) 現場閉所を行うときは、工程会議等により監督員が事前に把握している場合を除き、事前に監督員にメール等で連絡を行うものとする。
- (2) 受注者は、工事完了後に、週休2日の取得結果が確認できる「取得報告書」（様式－2）を作成し、監督員へ提出するものとする。また、工事途中において、監督員より「取得報告書」の作成及び提出を求められた場合は、その求めに応じるものとする。
- (3) 監督員は、受注者から提出された「取得報告書」を基に、週休2日の取得状況を確認するものとする。
- (4) 履行確認の結果、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額を減額変更するものとする。

#### 8－3 工期

本工事は、共通仕様書1－12「着工日」の規定によらず、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した余裕期間内（工事着手期限までの間）で、受注者が工事の始期を任意に設定することができる。

余裕期間内は、主任技術者または監理技術者を設置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、現場事務所等の設置、資材の搬入、仮設工事または測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。受注者は、受注者が設定した工事の始期までに、「工事打合簿」にて監督員に着工日を通知した上で、工事に着手しなければならない。

余裕期間（工事着手期限）：契約保証取得の日の翌日から60日間（まで）

#### 8－4 週休2日工事に要する費用

##### 8－4－1 補正対象項目及び補正方法

発注者は、週休2日工事の積算に当たっては、土木工事積算基準（4週8休）の規定に基づき設計金額の算出を行うものとする。

また、週休2日の確保を本特記仕様書8－2「履行確認（週休2日確保の確認方法）（2）」による確認後、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額のうち補正分を減額変更するものとする。

なお、減額費用の算出方法等の取扱いについては、共通仕様書1-33-1「新単価」の規定によるものとし、NEXCOの土木工事積算基準により減額費用を算出するものとする。

## 8－5 支払

週休 2 日工事に要する費用は、関連する単価項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

## 9. カーボンニュートラル試行工事

本工事は、受注者の提案によるカーボンニュートラルに資する取り組みを推進する「カーボンニュートラル試行工事」である。

受注者は契約後、カーボンニュートラルに資する取り組みについて監督員と協議し、監督員により履行が確認された場合は、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価を行うものとする。

### 9－1 評価対象となる取り組み

本工事において、カーボンニュートラルに資する取り組みとして、発注者が評価する取り組みは以下の 1) ～ 6) のすべてを満たす取り組みで監督員が認めたものとする。

- 1) 本工事で行う取り組み
- 2) 次のいずれかを行う取り組み
  - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素排出量の削減に寄与する取り組み
  - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素の吸収に寄与する取り組み
  - ・ 二酸化炭素の発生を低減して製造された資材等を活用した取り組み
- 3) 発注者が費用を計上していない取り組み
- 4) 他の取り組みなどで、工事成績評定で重複して加点評価しない取り組み
- 5) 対象工事において、実施が確認できる取り組み
- 6) 工事の安全や目的物の品質に影響を与えない取り組み

### 9－2 取り組み内容の提案及び加点評価対象の通知

カーボンニュートラルに資する取り組みの提案については次のとおりとする。

- 1) 受注者は取り組みを実施する場合、カーボンニュートラル施工計画書（様式-10）を監督員に提出するものとする。
- 2) 監督員は、提出されたカーボンニュートラル施工計画書の内容を確認し、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価対象となる提案項目を工事打合簿により受注者へ通知するものとする。

なお、監督員が提案項目を加点評価対象と認めない場合、受注者は施工計画書を修正し改めて提出することができるものとする。

### 9－3 履行の確認

カーボンニュートラルに資する取り組みの履行の確認については本特記仕様書に定める創意工夫・社会性等に関する実施状況（様式-11）により工事完了までに監督員に提出するものとする。

なお、本工事で実施したその他の創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出についても、共通仕様書の様式によらず、本特記仕様書で定めた様式-11 によるものとする。

## 10. 関連工事に関する事項

### 10-1 対象工事

契約書第2条に規定する発注者の発注に係る第三者が施工する他の工事は下表のとおりとする。なお、下表に示す工事は現時点での予定であり、追加及び変更が生じる場合は別途監督員から連絡するものとする。このほか、東日本高速道路(株) 北海道支社北広島管理事務所で行う規制調整会議(毎週木曜日)に出席し、当該工事の規制に関連する工事の受注者と調整することとする。

工事名	主な 関連事項	予定工期	施行 主体	受注者等名
北広島管内 道路保全工事業務	交通規制、 工事区間の重複	通年	東日本高速道 路(株)	(株)ネスコ・ メンテナンス北海道
道路詳細点検業務	交通規制、 工事区間の重複	通年	東日本高速道 路(株)	(株)ネスコ・ エンジニアリング北 海道
施設保全工事業務	交通規制、 工事区間の重複	通年	東日本高速道 路(株)	
施設保全管理業務	交通規制、 工事区間の重複	通年	東日本高速道 路(株)	
管理施設保全工事業務	交通規制、 工事区間の重複	通年	東日本高速道 路(株)	(株)ネスコ 東日本エンジニア リング
道央自動車道 ママチ川 橋床版取替工事	交通規制、 工事区間の重複	令和3年6月25日～ 令和8年1月28日	東日本高速道 路(株)	戸田建設(株)
道央自動車道 漁川橋塗 替塗装工事	交通規制、 工事区間の重複	令和5年2月14日～ 令和8年1月28日	東日本高速道 路(株)	ショーボンド 建設(株)
道央自動車道 茂漁川橋 床版取替工事(仮称)	交通規制、 工事区間の重複	未定	東日本高速道 路(株)	未定
道央自動車道 社台川橋床版取替工事	交通規制、 工事区間の重複 対面通行規制実施	令和4年3月19日～ 令和8年2月25日	東日本高速道 路(株)	(株)安藤・間・岩 田地崎建設(株) JV
道央自動車道 メップ川橋西地区原形復 旧工事	工事区間の重複	令和2年9月12日～ 令和7年12月4日	東日本高速道 路(株)	(株)横川ブリッ ジ
日高自動車道 植苗高架橋耐震補強工事	工事区間の重複	令和3年7月6日～ 令和7年3月31日	東日本高速道 路(株)	ショーボンド 建設(株)
北海道支社管内 路肩無 線設備工事	交通規制 工事区間の重複	令和5年3月28日～ 令和7年9月12日	東日本高速道 路(株)	NEC ネットエ スアイ(株)
道央自動車道 千歳 IC～ 江別西 IC 間可変式速度規 制標識設備更新工事	交通規制 工事区間の重複	令和5年6月29日～ 令和8年2月12日	東日本高速道 路(株)	(株)関電工

工事名	主な 関連事項	予定工期	施行 主体	受注者等名
道央自動車道 登別室蘭 IC～美唄 IC 間 CCTV 設備更 新工事	交通規制 工事区間の重複	令和 6 年 12 月 1 日～ 令和 8 年 7 月 17 日	東日本高速道 路(株)	NEC ネットア イ(株)
道央自動車道 千歳 IC～ 江別西 IC 間可変式速度規 制標識設備更新工事	交通規制 工事区間の重複	未定	東日本高速道 路(株)	未定
道央自動車道 北広島管 内北地区舗装補修工事	交通規制 工事区間の重複	令和 6 年 3 月 19 日～ 令和 8 年 3 月 8 日	東日本高速道 路(株)	東亜道路工業 (株)
道央自動車道 千歳川橋 (西) 塗替塗装工事	工事区間の重複	令和 5 年 2 月 27 日～ 令和 9 年 1 月 11 日	東日本高速道 路(株)	ショーボンド 建設(株)
道央自動車道 千歳川橋 (東) 塗替塗装工事	工事区間の重複	令和 6 年 3 月 12 日～ 令和 9 年 1 月 25 日	東日本高速道 路(株)	ショーボンド 建設(株)

#### 1 1. 工事費構成内訳書に関する事項

工事費構成内訳書の提出について、契約書第 3 条第 1 項に規定する「設計図書に基づく工事費構成内訳書」は、様式－3（別添）のとおりとする。なお、提出は共通仕様書 1－19－1 で規定する工程表と合わせて提出するものとする。また、工事費構成内訳書の提出は、当初契約締結時とし、契約変更時の提出は要しないものとする。

#### 1 2. 工程表及び履行報告に関する事項

共通仕様書 1－19－1「工程表の提出」及び 1－19－2「履行報告」に規定する工程表（様式－4、5）の記入方法は下記のとおりとする。

1 2 - 1 共通仕様書 1 - 1 9 - 1 「工程表の提出」に規定する工程表

- (1) 準備・跡片付けは、工程のみを棒グラフで記入する。
- (2) 準備・跡片付け以外の項目は、工程を棒グラフで記入し、棒グラフの上段に各月ごとに累計計画出来高（％）を記入する。
- (3) 右側摘要部分の目盛に従い計画出来高累計折線を記入する。
- (4) 工程表に示す項目は次のとおりとする。

工程表の項目	単価表の項目
アスファルト舗装改良工	切削オーバーレイ工（B - 1 及び B - 2 を除く）、打換工、クラックシート工、クラックシール工
床版防水工	切削オーバーレイ工 B - 1 及び B - 2、床版防水工、床版防水記録表、床版上面の断面修復工、コンクリート除去工
構造物保全工 伸縮装置取替	伸縮装置取替 E 1 （S = 2 0 mm）及び E 2 （Y）（S = 2 0 mm）
交通管理施設工	路面標示工
雑工	上記以外

1 2 - 2 共通仕様書 1 - 1 9 - 2 「履行報告」に規定する工程表

上記工程表に下記の事項を記入し報告するものとする。

- (1) 棒グラフの下段に当月までの累計実施出来高を記入し、翌月以降の予定を（ ）で記入する。
- (2) 計画出来高累計折線に当月までの累計実施出来高及び翌月以降の予定を点線で記入する。
- (3) 当月までの延べ労働時間について月毎、年毎、累計について記入する。

1 3 . 貸与品に関する事項

1 3 - 1 貸与品

契約書第 1 5 条第 1 項に基づく貸与品は、下表のとおりとし、設計図書に定められた使用目的以外に機械を使用してはならない。

品名	品質 (規格)	数量	引渡し場所及び 引渡し時期	貸与期間
交通規制標識類	規制・警戒標識 (高輝度)	2 規制分	北広島管理事務所 必要の都度	工事期間中 (冬季休止期間除く)

交通規制に使用する上記以外の規制材（標識車、矢印板、ラバコーン、規制回転灯、ロボット誘導員、夜間規制用資材、その他必要な機材等）は受注者が用意するものとするが、その費用については関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

### 1 3－2 貸与品に関する費用

貸与機械の使用は無償とする。なお、機械の運転に要する燃料、油脂、現場修理及び管理に要する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。また、受注者の責によらない事由により、規制機材等の貸与が受けられない場合は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

## 1 4. 保安に関する事項

### 1 4－1 工事用車両の運行速度

一般道の人家連担区域等や高速道路上における運行速度は、法定速度若しくは規制速度を遵守するとともに、過積載の防止等法令を遵守するものとする。

### 1 4－2 標識等の設置

共通仕様書 1－2 5－1 「安全対策」に規定する安全対策を実施するにあたっては、必要とする箇所及び期間において、工事標示板、標識等の安全施設を設置するものとする。

また、高速道路本線上における交通規制内の路上作業関係者に対し、危険車両等の誤進入による事故を防止するため、交通規制テーパー部に設置する矢印板においては高輝度反射式、危険車両が接近した際の規制内作業員への警告として用いる警報機付安全旗、大音量電子ホイッスル、交通規制内の工事箇所手前に進入車両強制停止装置等の交通安全対策施設を設置等の措置を講じるものとする。なお、危険車両対策として実施する高輝度反射式の矢印板、進入車両強制停止装置の費用は関係する単価に含むものとし、警報機付安全旗、大音量電子ホイッスルについては諸経費に含むものとする。

また、安全施設について監督員が追加を指示した場合は、その指示に従わなければならない。なお、この場合の費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

#### 1 4－3 交通規制

- (1) 交通規制は本特記仕様書 2 3－7 によるものとし、工事内容別の交通規制の種別は下表のとおりとする。なお、道路交通法第 8 0 条の規定に基づく協議により設計図書の変更が生じた場合は、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

単価表の項目	交通規制が必要な作業の単価項目	備考
交通規制工	割掛け項目に示す事前調査	
路肩規制 I × 1 路肩規制 I × 1 (Y)	伸縮装置取替	
交通規制工 車線規制 I × 1 × 0 車線規制 I × 1 × 1 車線規制 I × 2 × 0 車線規制 II × 1 × 0 車線規制 II × 1 × 1 車線規制 III × 1 × 0	切削オーバーレイ工 A-1、打換工、路面標示工、クラックシート工、クラックシール工及び事前調査（本特記仕様書 2 3－3－2（7）「舗装事前調査」記載事項）	
交通規制工 連続車線規制 A 連続車線規制 B	切削オーバーレイ工 B-2、路面標示工、床版防水工、床版上面の断面修復工、コンクリート除去工、縁石工、撤去工、伸縮装置取替	
交通規制工 連続ランプ閉鎖規制 A 連続ランプ閉鎖規制 B	切削オーバーレイ工 B-1、路面標示工、床版防水工、床版上面の断面修復工、コンクリート除去工、縁石工、撤去工	
交通規制工 ランプ閉鎖規制 A (Y) ランプ閉鎖規制 B (Y)	切削オーバーレイ工 A-2 (Y)、路面標示工 伸縮装置取替	

- (2) 受注者は、監督員が近接して施工を行う他工事と調整を行い、同一規制内での施工を指示した場合、これに従うものとし、他工事の円滑な施工及び調整に協力するものとする。

#### 1 4－4 交通保安員の配置

受注者は、本特記仕様書 2 3－7－2 及び設計図に示すとおり、交通保安要員を配置しなければならない。

#### 1 4－5 安全管理の強化

##### 1 4－5－1 注意喚起の方法

発注者が提供する他工事の事故情報に基づき実施する注意喚起や現場点検にあたっては、当該工事に状況を置き換え、点検項目を設定するなどより具体的に実施し、不備があれば速やかに改善すること。

#### 1 4－5－2 リスクアセスメント

工事の施工内容や施工環境の変化等に応じて、適宜、リスクアセスメントを設定（見直し）し、その結果に基づき、設計条件・施工条件・管理方法に対して必要な対策を講ずること。また、新たに入所する作業班への引継ぎについても元請会社がその都度確実に実施すること。

特に供用道路、鉄道、家屋等に近接する第三者被害を伴う災害リスクが大きい工事や高速道路の規制を伴う工事は、事故発生の影響を考慮して適切なリスク評価を行うこと。

#### 1 4－5－3 資機材落下防止

特に道路・鉄道との交差又は近接箇所及び高速道路等での資機材の飛散・落下に伴う公衆災害の防止対策について徹底すること。

#### 1 4－5－4 新規入場者教育

新規入場者教育については、下請会社の統制、教育終了の確認、教育未了者の入場抑止手段などに留意して、元請会社が確実に実施すること。

#### 1 4－6 現場内の安全管理

作業計画書に基づく作業手順の徹底及び安全管理責任者による現場の管理・確認と是正指導を徹底すること。

#### 1 4－7 光通信ケーブル等損傷事故防止対策

##### 1 4－7－1 光通信ケーブル等損傷事故の防止

受注者は、高速道路に埋設又は添架されている光通信ケーブル等管路（以下、「光ケーブル等」という。）の損傷事故を防止するために光ケーブル等との近接箇所の工事の施工にあたっては、「光通信ケーブル等損傷事故防止マニュアル（令和3年7月）」（以下、「光通信マニュアル」という。）に基づき、万全の措置を講じなければならない。

##### 1 4－7－2 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者

- （１）受注者は、高速道路に埋設されている光ケーブル等の損傷事故を防止するため、工事の計画、現場指導等の強化を実施する専任の光通信ケーブル等損傷事故防止監理者を定め、監督員に通知しなければならない。
- （２）光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、光通信マニュアルの内容を十分理解し、光ケーブル等の損傷事故防止に関して万全の措置を講じられるよう作業員に安全教育の徹底を図り、指導及び監督を行うものとする。また、試掘時及び近接工事作業時に現場に立会い、事故防止に関する指導、監督を行わなければならない。
- （３）光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、現場代理人、主任（監理）技術者及び専門技術者と兼ねることができるものとする。



#### 1 4－7－3 光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用

光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。ただし、監督員が埋設物に対する試掘等の調査を指示した場合はこれに従うものとし、これに要する費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする。

#### 1 4－8 保安に関する事項

- (1) 特記仕様書 1 4－3、4 に要する費用は単価表の項目で支払いを行うものとする。1 4－5、6、7 に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。
- (2) 受注者は、本特記仕様書 1 4－4 に記載されている「本特記仕様書 2 3－7－2 及び設計図」以外の箇所であっても、必要がある場合は交通保安要員を配置しなければならない。なお、監督員が交通保安要員の配置の変更を指示した場合は、これに要する費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする。

### 1 5. 環境保全に関する事項

#### 1 5－1 砂塵等の防止

受注者は、工事用機械及び車両の走行による砂塵等の被害を第三者に及ぼさないよう善良な管理を行うものとする。

#### 1 5－2 高速道路の環境美化

受注者は、工事の施工に伴う交通規制の実施にあたり、その規制区間内のゴミ等を除去する等、高速道路の環境美化に努めなければならない。

#### 1 5－3 騒音等に関する配慮

受注者は、施工に伴う工事用機械及び車両の騒音対策について、近隣の地域住民へ十分な配慮を講じて施工を行わなければならない。

#### 1 5－4 汚濁水処理

ウォータージェット等により生ずる汚濁水は、関係法令等に従って適切に処理を行うものとする。また、受注者は汚濁水の処理方法について計画書を監督員に提出するものとする。

汚濁水の処理に必要な汚濁水処理施設（鋼製タンク等）及び中和剤等 pH 処理等に必要な費用及び汚濁水処理施設で最終的に発生する建設汚泥の処分費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

#### 1 5－5 環境保全に関する費用

本特記仕様書 1 5－4 「汚濁水処理」に必要な費用を除く、環境保全に関する費用については、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

## 16. 建設副産物に関する事項

### 16-1 建設副産物

共通仕様書 1-28-2「再生資源、建設副産物及び特定建設資材」(1)及び(2)に示す再生資源利用計画書等の様式は共通仕様書の規定にかかわらず建設副産物情報交換システム(以下「COBRIS」という。)によるものとし、COBRIS登録に要する費用は受注者の負担とする。

ただし、やむを得ない事由によりCOBRISの使用ができないと監督員が認めた場合は、国土交通省のリサイクルホームページの建設リサイクル報告様式によることができるものとする。

### 16-2 建設副産物の活用等

(1) 共通仕様書 1-28「建設副産物」の規定に基づき指定する建設副産物の取扱いは、下表のとおりとする。

建設副産物	発生場所	数量	活用方法等
アスファルトコンクリート塊 (切削廃材、埋設ジョイント、 アスファルト縁石)	舗装改良工施工範囲 苫小牧東IC橋	約 8,300 t	再資源化施設へ搬出 (有償)
アスファルトコンクリート塊 (床版防水材(シート系)含む)	別々川橋(上) 段坂橋(上) ポン樽前川橋(下) 樽前橋(下)	約 50 t	最終処分場へ搬出 (有償)
コンクリート塊 (伸縮装置取替、コンクリート除去工、 コンクリート縁石)	登別室蘭ICランプ第1橋 (Eランプ) 別々川橋(上) 段坂橋(上) ポン樽前川橋(下) 樽前橋(下) 苫小牧東IC橋	約 50 t	再資源化施設へ搬出 (有償)
コンクリート塊 (研掃材含む)	登別室蘭ICランプ第1橋 (Eランプ)	—	再資源化施設へ搬出 (有償)
建設汚泥 (床版防水工B2(下地処理)、 伸縮装置取替、コンクリート除去工)	登別室蘭ICランプ第1橋 (Eランプ) 別々川橋(上) 段坂橋(上) ポン樽前川橋(下) 樽前橋(下)	—	再資源化施設へ搬出 (有償)

(2) 再資源化（最終処分）をする施設名称及び所在

建設副産物	施設名称	所在地	受入条件
アスファルトコンクリート塊 (切削廃材、埋設ジョイント、 アスファルト縁石)	イブリアスコン 共同企業体	登別市 大和町 1-8-7	受入曜日：月～土 (第 1、2、4 土曜は休) 受入時間：8：00～17:00 (夜間は事前協議により 可)
	道路建設 (株)	苫小牧市字 沼ノ端2-27	受入曜日：月～金 受入時間：8：00～17:00 (夜間は事前協議により 可)
アスファルトコンクリート塊 (床版防水材(シート系)含む)	(株) アビーロ ード	白老郡白老町 字竹浦 426	受入曜日：月～土 (第 2 土曜は休) 受入時間：7：30～17:00
コンクリート塊 (伸縮装置取替、コンクリート除去 工、コンクリート縁石)	(株) 草塩建設	登別市 川上町 304-1	受入曜日：月～金 受入時間：8：00～17:00 小割条件 30 cm以内
	(株) アールア ンドイー	登別市 富浦町 223-1	受入曜日：月～土 受入時間：8：00～17:00 小割条件 30 cm以内
コンクリート塊 (研掃材含む)	未定	—	—
建設汚泥	未定	—	—

記載している事項については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。受注者が提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、床版防水材を含むアスファルトコンクリート塊の処分は、記載した処理施設で本工事契約後受注者と処理施設とで協議により受入不可となった場合又は現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

(3) 研掃材を含むコンクリート塊及び建設汚泥は数量が未確定なため、その費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする。

1 6－3 建設副産物の活用等に要する費用

建設副産物の活用等に要する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし別途支払は行わないものとする。ただし、監督員が必要であると認めて建設副産物の活用等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとする。なお、これらに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

また、本特記仕様書 1 6－2 (3) により定められた処理に要する費用は、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

## 1 7. 補完検査に関する事項

### 1 7－1 補完検査

補完検査とは、しゅん功検査（一部しゅん功検査を含む。以下この項において「しゅん功検査等」という。）を実施しようとする時期に、現地気象条件等により工事目的物の検査（以下この項において「現地検査」という。）の実施に支障等が生じることが予想される場合に、しゅん功検査等に先立ち現地検査を行うものをいう。

### 1 7－2 補完検査の実施

補完検査は、現地気象条件等により現地検査の実施に支障等が生じることが予想され、しゅん功検査の場合にあつては共通仕様書 1－4 5－2（1）及び（2）、一部しゅん功検査の場合にあつては共通仕様書 1－4 6－2（1）及び（2）の条件を満たすと監督員が判断し、補完検査の実施について監督員から受注者に対して協議を行い、受注者が同意した場合に実施できるものとする。

### 1 7－3 検査日及び検査員名の通知

監督員は、補完検査の実施について受注者の同意が得られた場合は、補完検査に先立って受注者に対して、検査日及び検査員名を通知するものとする。

この場合において、受注者は、検査に必要な書類、資料及び写真等を整備するとともに、必要な人員及び機材等を準備し、提供しなければならない。

### 1 7－4 補完検査の内容

検査員は、監督員及び受注者の立会いの上、工事目的物を対象として契約書類と対比し、工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえのうち現地にて確認すべき事項の検査を行う。

### 1 7－5 設計図書どおり工事が完成していない場合の取扱い

#### 1 7－5－1 修補の指示

検査員は、修補の必要があると認めた場合は、受注者に対して、工期末の日（一部しゅん功検査の場合は指定部分の引渡し時期）を期限として修補の指示を行うことができるものとする。ただし、受注者がその指示に異議を申し出た場合はこの限りではない。

#### 1 7－5－2 修補の完了の確認

検査員が、修補の指示をした場合において、修補の完了の現地確認は監督員が行うものとし、しゅん功検査時にしゅん功検査員に報告の上確認を受けるものとする。

#### 1 7－5－3 修補が完了しない場合

検査員が指示した期限の日までに修補が完了しなかった場合には、受注者はしゅん功届又は一部しゅん功届を提出してはならない。この場合、受注者は修補の完了後、監督員に現地確認を受けた後にしゅん功届又は一部しゅん功届を提出するものとする。

## 1 7－6 補完検査を実施した場合のしゅん功検査

### 1 7－6－1 工事しゅん功届、工事一部しゅん功届提出の要件

補完検査を実施した場合は、共通仕様書 1－4 5－2 及び 1－4 6－2 に規定する満たすべき要件に下記を追加する。

- ・補完検査において修補の指示を受けた場合は、その修補が完了していること。

### 1 7－6－2 しゅん功検査の内容

補完検査を実施した場合は、修補の完了確認等特別な事情がない限り現地検査は行わず、書面にて共通仕様書 1－4 5－4 及び 1－4 6－4 に規定する検査を行うものとする。

## 1 8．部分使用に関する事項

### 1 8－1 工事の部分使用

共通仕様書 1－4 9－1 の規定に基づき部分使用する箇所及びその使用開始時期は、下表のとおりとする。

箇 所	使用開始時期	使用理由
・アスファルト舗装改良工及び関連項目 ・伸縮装置取替箇所	規制開放の都度	一般の用に供するため

なお、供用中の高速道路において工事目的物を一般の用に供する場合は、部分使用に先立ち以下のとおり検査を実施するものとする。

#### (1) 部分使用検査

出来形等に関する工事施工立会い（検査）願に基づく検査を兼ねるものとする。

#### (2) 検査実施日時

出来形等に関する工事施工立会い（検査）願に記載の日時とする。

#### (3) 検査対象工事目的物

出来形等に関する工事施工立会い（検査）願に記載の工事目的物とする。

#### (4) 検査を実施するもの

別途通知する監督員、副監督員、主任補助監督員、補助監督員のいずれかのもの。

## 1 9．現場環境改善に関する事項

受注者は、工事現場の現場環境改善を図るため、現場事務所、作業員宿舎、休憩所又は作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域との積極的なコミュニケーション及び現場周辺の美装化に努めるものとする。

実施する内容については以下のとおりとし、共通仕様書 1－2 0－1 「施工計画書の提出」に規定する施工計画書に具体的な実施方法を記載するものとする。本件に関する費用については、諸経費に含むものとし、別途支払いを行わない。

計上費用	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 緑化・花壇 2. 環境負荷の低減
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化
現場環境改善（安全関係）	1. 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等）
地方連携	1. 社会貢献

## 20. 工事用プレートに関する事項

発注者は、本工事の施工に必要な車両が下表に示す道路に乗り入れる場合は、工事用プレート（ETC対応）等を受注者の申請により交付する。

受注者は、工事用プレート等を適正に使用し管理するとともに、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。

道路名	区間	備考
道央自動車道	室蘭IC～千歳IC	工事用車両※
日高自動車道	苫小牧東IC～沼ノ端西IC	

※アスファルト混合物、生コンクリート、骨材（砕石、砂）、廃材を運搬する車両、工事規制の設置・撤去に関わる標識車、規制資材運搬車、質量20t以上の建設機械の運搬車、質量3t以上の建設機械の作業基地から現地までの運搬車を対象とする。連絡車（現場代理人等の現場管理する技術者の車両及び現地までの労務員の輸送に使用する車輛）の有料料金については諸経費に含むものとし、指定のない工事材料を運搬する車両の有料道路料金については関連する単価表の項目に含むものとする。

## 21. 工事変更等検討会の設置

本工事は、工事の変更手続きの透明性及び公正性の向上や適正な工期確保を目的に、発注者と受注者が一堂に会して、工事の変更等の妥当性の審議及び工事工程クリティカルパス等の共有ならびにこれらに伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「工事変更等検討会」の試行対象工事である。

「工事変更等検討会」の運用にあたっては、契約締結後、監督員より別途通知するものとする。

## 22. 道路構造物点検の実施

受注者は、「保全点検要領 構造物編（令和6年4月）」（以下「点検要領」という。）及び監督員の指示に従って初期点検を行い、点検カルテ等必要な調書を作成し監督員へ提出しなければならない。

### 22-1 点検の対象

共通仕様書1-17-3「初期点検」に規定する初期点検の対象構造物は、点検要領 第1編 第4章「点検の対象構造物」に基づき、橋梁（伸縮装置）とする。

## 2 2 - 2 点検方法

点検は、点検要領 第2編 第1章「初期点検」に基づき行うものとする。

## 2 2 - 3 点検結果の記録

点検の結果は、点検要領 第4編 第1章「点検の記録及び報告」に基づき行うものの他、補修記録、その他監督員が指示する項目など品質の履歴として引き継ぐ必要のある特記事項を作成・整理し、外観検査の記録として監督員に提出するものとする。

## 2 2 - 4 点検に関する費用

点検の実施に要する費用は諸経費に含まれるものとし、別途支払は行わないものとする。

# 2 3 . 工事細部に関する事項

## 2 3 - 1 施工計画書

共通仕様書 1 - 2 0 - 1 「施工計画書の提出」に下記を追加する。

(1 6) 光通信ケーブル等損傷事故防止の対策

## 2 3 - 2 施工時間帯による単価表の表記区分

単価表の項目末尾名称に施工時間帯に応じて下表に示す区分表記を行うものとする。

施工時間	単価表の項目末尾の表記	備考
夜間作業 注)	(Y)	ランプ閉鎖時の作業及びその作業に関わる交通規制作業等
上記以外	無表記	上記以外

注) 夜間作業の施工時間については本特記仕様書 2 3 - 7 - 1 (2) に記載のランプ閉鎖規制の標準規制交通時間 (22 : 00 ~ 翌 5 : 00 まで) のことである。なお、規制時間の変更を行った場合に要する費用については、監督員と受注者で協議するものとする。

## 2 3 - 3 舗装工

### 2 3 - 3 - 1 適用すべき諸基準

共通仕様書 1 3 - 2 「適用すべき諸基準」に下記を追加する。

・低速プロファイラの運用に関する補足資料 (別添 - 1)

## 2 3 - 3 - 2 アスファルト舗装改良工

### (1) 種別

アスファルト舗装改良工の単価表の項目の種別は、共通仕様書 1 3 - 8 - 4 「種別」によるほか、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
切削オーバーレイ工 A - 1	土工部及び橋梁部の既設舗装を路面切削機で切削した後、高機能舗装Ⅱ型用混合物を舗設するもの。
切削オーバーレイ工 A - 2	高速道路ランプ閉鎖で行うランプ土工部の既設舗装を路面切削機で切削した後、高機能舗装Ⅱ型用混合物を舗設するもの。
切削オーバーレイ工 B - 1	昼夜連続ランプ閉鎖規制で行う舗装補修工で橋梁部の既設舗装を路面切削機で切削及びバックホウで撤去した後、橋梁レベリング層用混合物及び高機能舗装Ⅱ型用混合物を舗設するもの。
切削オーバーレイ工 B - 2	既設床版防水施工箇所に昼夜連続車線規制で行う舗装補修工で橋梁部の既設舗装を路面切削機で切削及びバックホウで撤去した後、橋梁レベリング層用混合物及び高機能舗装Ⅱ型用混合物を舗設するもの。
打換工 A	切削オーバーレイ工に先立ち、土工部の既設舗装面を路面切削機で切削した後、既設路面の高さまで基層用アスファルト混合物を人力施工で舗設するもの。

### (2) 設計断面

アスファルト舗装改良工の設計断面は、下記のとおりとする。なお、新規混合物の厚さに大幅な変更が生じた場合は、これに要する費用については、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

単価表の項目	設計 切削深	設計断面に おける新規 混合物厚さ	備考
切削オーバーレイ工 A - 1 A - 2	4.0 cm	4.0 cm	高機能舗装Ⅱ型用混合物
切削オーバーレイ工 B - 1 B - 2	7.5 cm	4.0 cm	表層：高機能舗装Ⅱ型用混合物
		3.5 cm	レベリング層：橋梁レベリング層用混合物
打換工 A	10.0 cm	10.0 cm	基層用アスファルト混合物



### (3) 材料及び基準

共通仕様書 13-8-5 「材料及び基準」に規定するアスファルト舗装改良工に使用するアスファルト、アスファルト骨材の粒度の種類及び基準は下記に示すとおりとする。各混合物のマーシャル試験の突固め回数は両面ともに 50 回とする。

また、高機能舗装Ⅱ型用混合物の表面きめ深さの規定値については、舗装施工管理要領によらず、0.8～1.2mmの管理目標値とする。

また、橋梁レベリング層用混合物の水浸ホイールトラッキング試験は、舗装施工管理要領によらず、配合設計時は決定粒度のみで実施するものとする。

単価表の項目	アスファルトの種類	標準アスファルト量	骨材配合最大粒径	骨材の粒度の種別
切削オーバーレイ工 A-1 A-2 B-1 B-2	改質アスファルト (寒冷地域Ⅰ・Ⅱ用)	5.5%	13mm	設計要領第一集 舗装保全編 3-5-3 表 3-2 6 「高機能舗装Ⅱ型用混合物」
打換工 A	改質アスファルト (一般用)	5.5%	20mm	本特記仕様書 23-3-2 (3) 1) 表 1-1
切削オーバーレイ工 B-1 B-2	改質アスファルト (一般用)	6.2%	13mm	設計要領第一集 舗装保全編 3-5-7 表 3-4 2 「橋梁レベリング層用混合物」

#### 1) 基層用アスファルト混合物の骨材粒度

基層用アスファルト混合物に使用する混合物の配合設計粒度は、表 1-1 のとおりとする。なお、使用する骨材の密度が 0.2g/cm<sup>3</sup> 以上異なる場合は、配合比の修正を行う。配合比については設計要領第一集舗装保全編 3-5-3 (2) ⑦によるものとする。

表 1－1：基層用アスファルト混合物の配合設計標準粒度範囲

ふるい目の開き (mm)	ふるい通過質量百分率 (%)
26.5	100
19.0	95～100
13.2	75～90
9.5	65～83
4.75	50～67
2.36	37～53
0.6	24～30
0.3	16～24
0.15	9～14
0.075	7～10

## 2) 基層用アスファルト混合物の配合試験基準値

基層用アスファルト混合物に使用する混合物の配合試験、規定値及び品質基準値は下表のとおりとする。

表 1－2：基層用アスファルト混合物の配合試験

種別	試験項目	試験方法	試験頻度	規定値
基 層 用 ア ス フ ア ル ト 混 合 物	マーシャル試験	試験便覧 B001 試験便覧 B008	材料及び配合粒度が異なるごとに As 量 5 点で標準各 3 個、推定最適 As 量を挟む 3 点で水浸各 3 個	表 1－1 表 1－3
	ホイールトラッキング試験	試験便覧 B003 注 1)	上記試験を満足する各粒度の最適 As 量で 1 回 (3 枚/回)	表 1－4
	水浸ホイールトラッキング試験	試験法 244	上記試験を満足する決定配合にて 1 回 (2 枚/回)	平均はく離率 5%以下
	透水係数	試験便覧 B017T	上記試験を満足する決定粒度の最適 As 量で 1 回 (3 個/回)	$1.0 \times 10^{-7}$ 以下

注 1) 供試体の密度は、マーシャル試験における締固め密度の  $100 \pm 1\%$  以内とする。

表 1－3：基層用アスファルト混合物のマーシャル試験基準値

項 目	基準値
マーシャル安定度 (kN)	6.0 以上
フロー値 (1/100 cm)	15～40
空隙率 (%)	2.0～4.0
飽和度 (%)	70～85
水浸マーシャル残留安定度 60℃ 48 時間 (%)	75 以上

表 1－4：基層用アスファルト混合物の混合物性状

項 目	基準値
動的安定度 (回/mm)	1,000 以上
平均はく離率 (%)	5 以下
水密性 (透水係数) (cm/秒)	$1.0 \times 10^{-7}$ 以下

## 3) 基層用アスファルト混合物の試験練り

基層用アスファルト混合物の試験練りにおける試験項目とひん度は舗装施工管理要領によらず表 1－5 のとおりとする。

表 1－5：基層用アスファルト混合物の試験練りにおける試験項目とひん度

種別	項目	試験項目	試験方法	試験ひん度
基 層 用 ア ス フ ア ル ト 混 合 物	各種材料の条件	常温・加熱骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	各 2 個/1 回
	混合条件	アスファルト量	—	3 点/1 配合
		混合量、混合時間及び温度管理	—	適 宜
	混合物の性状	マーシャル試験	試験便覧 B001 試験便覧 B008	1 回/1 配合 As 量 3 点で標準、 水浸各 3 個
		アスファルト含有量試験	自動計量記録装置 または試験便覧 G005、G028 による	1 回/1 配合 (2 個/1 回)
		ホイールトラッキング試験 注 1)	試験便覧 B003	1 回/1 配合 (3 枚/1 回)
		透水係数 注 2)	試験便覧 B017T 注 3)	1 回/1 配合 (3 個/回)
		水浸ホイールトラッキング試験 注 2)	試験法 244	2 枚/1 配合

注 1) アスファルトプラント排出の混合物にて供試体を作製する。なお、供試体の密度は、マーシャル試験における締固め密度の  $100 \pm 1\%$  以内とする。また、ホイールトラッキング試験機は同一機械とし、原則として配合試験で使用了試験機とする。

注 2) 供試体は最適締固め温度にて作製し、指定の頻度で試験を実施するものとする。

注 3) 試験は、舗装施工管理要領Ⅱ－１－１(4)(b)(ii)に従って行う。

#### (4) 試験舗装

試験舗装を行う場所については、下表に示すとおりとする。

試験舗装の内容（面積、場所、混合物の種類など）は、監督員の指示により変更となった場合は、その指示に従うものとする。この変更に要する費用について監督員と受注者との協議し定めるものとする。

混合物の種類	予定面積	切削深	舗装厚	実施予定場所
高機能舗装Ⅱ型用混合物	約 150 m <sup>2</sup>	4.0 cm	4.0 cm	苫小牧中央 I C (内プラザ)
橋梁レベリング層用混合物	約 150 m <sup>2</sup>	3.5 cm	3.5 cm	

#### (5) 路面切削

路面切削については、共通仕様書 13－8－9「路面切削」による他、下記のとおりとする。

切削オーバーレイ工 B－１及び B－２の切削については、既設床版を傷めないように切削機及びバックホウ等により、既設舗装を撤去するものとする。

ただし、切削オーバーレイ工 B－２については、対象橋梁にシート系床版防水工（G I）が施工されているため、既設舗装 1 cm 程度残して切削機で切削し、床版防水工を含む残りの舗装についてはバックホウを用いて撤去するものとするが、この施工方法については、積算上の条件明示であるため、受注者が提示する施工方法と異なる場合においても、設計変更の対象としない。そのため、施工方法を監督員に提出するものとする。

#### (6) 施工

施工目地はコールドジョイントとするが、切削オーバーレイ工 B－１及び B－２の施工については縦横断方向の施工目地の位置を一致させないものとする。

切削オーバーレイ工 B－１及び B－２の施工にあたって、壁高欄際は入念にローラー等で転圧するものとし、転圧時に床版防水の端部等を損傷させてしまった場合は速やかに補修するものとする。補修材料及び補修方法については、施工計画書に記載するものとする。

舗装補修箇所が竹浦バスストップ、インターチェンジ及び休憩施設等の流入、流出ランプに係る箇所については、一般車両の通行を妨げぬように施工区割り等を立案するものとする。

また、切削時に消失した路面標示については、規制開放前に復旧するものとする。なお、打換工施工時に消失した路面標示の復旧については、使用材料及び施工方法を計画書に記載するものとし、復旧費用については、打換工の単価に含むものとし、別途計上は行わない。

### (7) 舗装事前調査

下記に示す1)～3)の調査に要する費用のうち、交通規制工、交通保安員、クラック調査及び橋梁部レベリング層厚さ確認調査以外の費用については諸経費に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。また、苫小牧東ICランプ部及び樽前SAランプ部の調査時の交通規制方法については、監督員と協議し決定するものとする。

#### 1) 施工範囲

施工開始前においては、設計図書及び監督員の指示に従って、設計図に示す補修範囲の舗装事前調査（施工範囲、路面損傷の状況確認等）及び写真記録を実施し、調査結果を監督員に報告するものとする。なお、監督員よりFWD測定や路面性状調査の別途指示があった場合は、受注者はその指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

#### 2) クラック調査

打換工の施工に先立って切取供試体を採取し以下の調査を行うものとする。

供試体深さは既設基層までの10cm程度とし、供試体を採取した箇所の復旧については、アスファルト混合物を使用して、舗装体として十分に機能し容易に破損しないよう入念に施工するものとし、それぞれ調査した結果のひび割れ深さについて監督員へ報告するものとする。なお、調査に要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

調査名称	対象工種	対象箇所	供試体寸法	頻度
クラック調査	打換工	土工部	直径 10cm 程度 厚さ 10cm 程度	ひび割れ箇所全数 (1 個/箇所)

#### 3) 橋梁部レベリング層厚さ確認調査

切削オーバーレイ工B-1及びB-2の施工に際し、事前に設計図書及び監督員の指示に従って、既設橋梁の舗装体から供試体を採取し、舗装厚さの確認を行うものとする。

供試体の採取に際しては、φ10cmの供試体を非わだち部で採取するものとし、全体舗装厚さについて監督員に報告するものとする。

供試体を採取した箇所の復旧については、アスファルト混合物を使用し、舗装体として十分に機能し容易に破損しないよう入念に施工するものとする。なお、供試体の採取数量は1伸縮装置間あたり5箇所とし、これに要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

## (8) 支払

共通仕様書 13-8-16 「支払」に下記を追加するものとする。

①切削オーバーレイ工 B-1 の支払は、前項の規定に従って検測した数量に対し、1 m<sup>2</sup>当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う切削機による切削、バックホウによる橋梁レベリング層の剥ぎ取り、舗装切削材の積込、処分場までの運搬、処理、施工面の清掃準備、瀝青材散布、混合物の製造、運搬及び舗設、配合設計、試験舗装に要する費用等切削オーバーレイ工の施工に必要な材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

②切削オーバーレイ工 B-2 の支払は、前項の規定に従って検測した数量に対し、1 m<sup>2</sup>当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う切削機による切削、バックホウによる橋梁レベリング層の剥ぎ取り、発生した床版防水材（シート系）を含む舗装切削材の積込、処分場までの運搬、処理、施工面の清掃準備、瀝青材散布、混合物の製造、運搬及び舗設、配合設計、試験舗装に要する費用等切削オーバーレイ工の施工に必要な材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	<u>単価表の項目</u>	<u>検測の単位</u>
13-(10)	切削オーバーレイ工	
	A-1	m <sup>2</sup>
	A-2 (Y)	m <sup>2</sup>
	B-1	m <sup>2</sup>
	B-2	m <sup>2</sup>
13-(12)	打換工	
	A	m <sup>2</sup>

## 2 3 - 3 - 3 床版防水工

### (1) 止水処理工

止水処理工は、橋梁レベリング層の止水目的に壁高欄端部及び伸縮装置境界にアスファルト系L型止水テープとし、下記に示す品質規格を満足するものとする。

#### 1) 本体（止水処理工）

項目		規格		摘要
形 状		貼り付け断面に安定して設置できるようL字型であること。 確実にL字型になるように、折り曲げ用のくぼみ(凹部)があること。凹部を除き、厚み3 mm程度、幅 100 mm程度であること。		
試験項目		試験法	規格値	
性状	針入度	舗装調査・試験法便覧 A102	6 mm以下 (円錐 25℃)	
	流動		5 mm以下 60℃	
	引張量		3 mm以上 (-10℃)	
	軟化点	JIS K 2207	95±15℃	
性状 試験	加圧透 水試験	舗装調査・試験方法便覧 B017T アスファルト混合物の加圧透水試験 (ゴムスリーブ法)	締固度 96%以上の基層用混合物を用いて、150kPa の加圧試験で 24 時間後の漏水が無いこと。	

#### 2) プライマー

項目	規格	摘要
不揮発分	20%以上	
指触乾燥時間	0℃で 30 分以下 23℃で 20 分以下	
作業性	JIS K 5600-1-1 に基づき、塗り作業に支障がないこと	
接着性	23℃で 24 時間水浸後における接着性に支障がないこと	

### (2) 施工

共通仕様書 1 3 - 9 - 4 「施工」を下記のとおり変更及び追加するものとする。

#### 1) 床版防水工 B 1

- ①床版防水工 B 1 の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ - 3 - 4 の規定に従って行わなければならない。
- ②スチールショットブラスト工法は投射密度 50 k g / m<sup>2</sup>、1 回とする。ただし施工初日に記載方法で試験施工を実施し、既設タックコート等が撤去できない場合については、監督員と協議し、定めるものとする。なお、狭小部及び地覆部の下地処理はディスクサンダーによる研掃とする。
- ③スチールショットブラスト工法により発生したブラスト廃材等の処理を行うものとする。ただし、ブラスト処理に必要な費用は、処理方法を記載した計画書提出後に別途監督員と協議し定めるものとする。

2) 既設床版面の粗面となっている箇所や不陸については、プライマーモルタルによる不陸整正を行い、凹凸のないように仕上げなければならない。なお、これに要する費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### 3) 床版防水工B 2

- ①床版防水工B 2の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ－3－4の規定に従って行わなければならない。
- ②ウォータージェット工法の水圧及び回数は200～220MPa×1回とする。ただし、施工初日に記載した水圧回数で試験施工を実施し、既設床版防水工が撤去できない場合には、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。なお、地覆部の下地処理はディスクサンダーによる研掃とする。
- ③ウォータージェット工法により発生した濁水の処理を行うものとする。  
なお、これに要する費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### (3) 支払

共通仕様書13－9－6「支払」を下記のとおり変更及び追加するものとする。

- ①床版防水工B 1の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1㎡当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う床版及び地覆面の清掃、下地処理（本特記仕様書16－2に示す研掃材を含むコンクリート塊の運搬及び処分等を除く）、接着層の施工、防水材の施工、養生、端部防水層の施工、端部保護材の施工、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
- ②床版防水工B 2の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1㎡当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う床版及び地覆面の清掃、清水の調達、ウォータージェット等による下地処理（下地処理により発生した汚濁水の回収及び汚濁水処理施設への運搬費用は含むものとするが、本特記仕様書16－2に示す汚濁水処理施設での建設汚泥の回収、運搬及び処理等に要する費用については除く）、接着層の施工、防水材の施工、養生、端部防水層の施工、端部保護材の施工、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。



## 2 3 - 3 - 4 床版防水記録表

### (1) 定義

床版防水記録表とは、床版防水記録表の製作、運搬及び設置を行うことをいう。

### (2) 種別

床版防水記録表の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
A	床版防水工施工箇所にて床版防水記録表を設計図書及び監督員の指示に従って設置するもの

### (3) 材料

床版防水記録表に用いる材料は、J I S H 4 0 0 0（アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条）A 5 0 5 2 Pの規格に適合したものとし、表面に高耐候性フィルムの貼付けを行うものとする。なお、高耐候性フィルムの品質規格は構造物施工管理要領Ⅱ-5-8「橋名板および橋歴板」(2)「材料」2「高耐候性フィルム」によるものとする。

また、床版防水記録表に用いる色は、白地に黒色文字とし、記載内容は舗装施工管理要領Ⅱ-4-8「記録」の規定によるものとする。また字体についてはゴシック体とする。

### (4) 数量の検測

床版防水記録表の数量の検測は、設計数量（箇所）で行うものとする。

### (5) 支払

床版防水記録表の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し1箇所当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う床版防水記録表の製作、運搬、設置等床版防水記録表の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で、諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	<u>単価表の項目</u>	<u>検測の単位</u>
特一（1）	床版防水記録表	
	A	箇所

## 2 3 - 4 交通管理施設工

### 2 3 - 4 - 1 路面標示工

#### (1) 数量の検測

共通仕様書1 6 - 4 - 5「数量の検測」を下記のとおり変更するものとする。

路面標示工の数量の検測は、設計数量（m又はm<sup>2</sup>）で行うものとする。

走行及び追越車線が同年度施工箇所については、中央破線は二次施工側で検測するものとし、一次施工分は別途検測しない。ただし、一次施工分の中央破線の施工費用については、関連する単価項目に含むものとする。

(2) 支払

共通仕様書 16-4-6 「支払」に下記を追加するものとする。

	単価表の項目	検測の単位
16-(7)	路面標示工	
	路面標示 J I S 規格型 B 1 (Y)	m
	路面標示 J I S 規格型 C 1 (Y)	m <sup>2</sup>

23-5 構造物保全工

23-5-1 床版上面の断面修復工

(1) 種別

床版上面の断面修復工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
A	設計図書及び監督員指示に従って、除去した箇所及び床版防水工施工に支障となる箇所の断面修復を行うもの

(2) 施工

共通仕様書 17-9-5 (3) 「施工」に下記のとおり変更する。

床版上面の断面修復工 A の施工は、構造物施工管理要領Ⅲ-4-2-6 「施工」によるものとする。施工管理試験については構造物施工管理要領Ⅲ-4-2-7 「施工管理試験」によるものとする。

また、コンクリート除去工において露出した鉄筋は、構造物施工管理要領の規定に従い適切に処理するものとする。

(3) 検査及び記録

床版上面の断面修復工 A の検査については、断面修復後、監督員による打音及び目視検査を行うものとする。記録については、構造物の適切な維持管理を行うために、コンクリート除去工を行った箇所の鉄筋防錆方法、施工方法、断面修復の材料・工法等の鉄筋防錆・断面修復の一連の結果を施工終了後速やかに提出するものとする。

(4) 数量の検測

共通仕様書 17-9-5 (4) 「数量の検測」に下記を追加するものとする。

床版上面の断面修復工 A の数量の検測は、監督員が認めた仕上がり数量 (L) で行うものとする。

#### (5) 支払

共通仕様書 17-9-5 (5) 「支払」に下記を追加するものとする。

床版上面の断面修復工Aの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 L 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う断面欠損箇所の鉄筋防錆・打継接着剤の塗布、左官工法による断面修復等床版上面の断面修復工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

<u>単価表の項目</u>	<u>検測の単位</u>
17- (33) 床版上面の断面修復工	
A	L

### 23-5-2 コンクリート除去工

#### (1) 定義

コンクリート除去工とは、床版防水を施工する橋梁部において、既設舗装切削後に床版上面の変状部分及び脆弱部を除去し、処分することをいう。

#### (2) 種別

コンクリート除去工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
A	設計図書及び監督員の指示に従って、ウォータージェット工法により床版上面の脆弱部を除去し、除去した部分の整形を行うもの
処分費	コンクリート除去工で発生した、コンクリート塊の処分費用

#### (3) 打音、目視検査及び調査

コンクリート除去工の設計数量は、非破壊検査結果によるものであり、既設舗装及び防水工撤去後、監督員による打音及び目視点検により、除去数量を定めるものとする。受注者は、監督員による検査時はこれに協力するものとする。

なお、受注者は既設舗装撤去後、事前調査として損傷部の状況・範囲確認及び写真撮影等実施するものとする。

#### (4) 施工

コンクリート除去工は、構造物施工管理要領Ⅲ-3-1-2「はつり処理」(2)「要求性能」1) 及び2) を満足しなければならないものとする。なお、はつりにあたり構造物毎に施工初日に実地で試験施工を行い、水圧及びはつり領域を監督員と確認し施工を行うものとする。試験施工で決定した水圧及びはつり領域で施工後に監督員による打音検査で脆弱部が確認され、追加施工の指示の際はこれに従うものとする。

#### (5) 検量

コンクリート除去工処分費の検量は処分先の検量機によって検量検査を行うものとする。

なお、検量は計量表に押印した検量証明書を作成し、監督員へ提出するものとする。

## （６）数量の検測

コンクリート除去工Aの数量の検測は、監督員が認めた仕上がり数量（L）、コンクリート除去工処分費の数量の検測は、提出された検量証明書の実数量（t）で行うものとする。

## （７）支払

①コンクリート除去工Aの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、1 L当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う清水の調達、ウォータージェット工法によるはつり処理、はつり作業により発生した汚濁水の回収、汚濁水処理施設へ運搬等のコンクリート除去工Aの施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用（本特記仕様書16-2に示す汚濁水処理施設での建設汚泥の回収、運搬、処理に要する費用を除く）で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

②コンクリート除去工処分費の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、1 t当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、除去したコンクリート塊の積込、運搬及び処分費用等コンクリート除去工処分費に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

### 単価表の項目

### 検測の単位

特一（２）      コンクリート除去工

A

L

処分費

t

## 23-5-3 伸縮装置取替

### （１）種別

共通仕様書17-3-2「伸縮装置取替の種別」に下記を追加する。

単価表の項目	構造、材料及び施工区分	施工箇所
E 1 (S = 20mm)	既設埋設ジョイントを撤去し、金属を主とした二次止水構造を有する製品ジョイントを設置するもの 既設コンクリート部の撤去はウォータージェットを用いて行うものとする	段坂橋
E 2 (Y) (S = 20mm)	既設埋設ジョイントを撤去し、金属を主とした二次止水構造を有する製品ジョイントを設置するもの 既設コンクリート部の撤去は電動ピックを用いて行うものとする	苫小牧東IC橋

### （２）施工

ウォータージェットによる既設コンクリート部の撤去の施工は、本特記仕様書23-5-2（４）「施工」によるものとする。既設コンクリート部の撤去数量が大幅に増加する場合の費用及び閉鎖日数については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

なお、二次止水の流末処理方法については、監督員と協議して定めるものとする。

### 3）支払

共通仕様書17-3-6「支払」に下記を追加するものとする。

①伸縮装置取替E 1 (S=20mm)の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、それぞれ1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う、清水の調達、ウォータージェット工法によるはつり処理、はつり作業により発生した汚濁水の回収、汚濁水処理施設へ運搬、既設伸縮装置の撤去、廃材の運搬処理、新設する伸縮装置の製作、運搬、据付け、超速硬コンクリートの打設等、伸縮装置の取替に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で（本特記仕様書16-2に示す汚濁水処理施設での建設汚泥の回収、運搬、処理に要する費用を除く）諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

②伸縮装置取替E 2 (Y) (S=20mm)の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、それぞれ1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う、打撃工法によるはつり処理、既設伸縮装置の撤去、廃材の運搬処理、新設する伸縮装置の製作、運搬、据付け、ギャッププレートの設置撤去、舗装の仮復旧、仮復旧舗装の撤去、超速硬コンクリートの打設等、伸縮装置の取替に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
17-(1)	伸縮装置取替	
	E 1 (S=20mm)	m
	E 2 (Y) (S=20mm)	m

## 23-6 雑工

### 23-6-1 縁石工

#### (1) 種別

縁石工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
アスファルト縁石A	橋梁地覆部に設置するアスファルト縁石

#### (2) 材料及び施工

縁石工の材料及び施工は共通仕様書18-6-2「アスファルト縁石工」の各項によるものとする。

#### (3) 支払

共通仕様書18-6-5「支払」に下記を追加する。

	単価表の項目	検測の単位
18-(4)	縁石工	
	アスファルト縁石A	m

## 2 3 - 6 - 2 クラックシート工

### (1) 定義

クラックシート工とは、路面を切削した箇所が発生しているリフレクションクラック等にクラック抑制シートを敷設するものをいう。

### (2) 種別

クラックシート工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
A	クラック抑制シートを敷設するもの

### (3) 材料

クラックシート工に用いる材料はガラス繊維を主材料としたシートとし、使用に先立って監督員の確認を受けなければならない。

### (4) 施工

クラックシート工の施工は、施工面を十分清掃した後に敷設するものとし、アスファルト混合物舗設時にクラック抑制シートがずれないように細心の注意を払って施工しなければならない。

### (5) 数量の検測

クラックシート工の数量の検測は、設計数量 (m<sup>2</sup>) で行うものとする。

### (6) 支払

クラックシート工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し 1 m<sup>2</sup>当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う施工面の清掃、プライマーの塗布、クラック抑制シートの貼り付け等クラックシート工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	<u>単価表の項目</u>	<u>検測の単位</u>
特一 (3)	クラックシート工	
	A	m <sup>2</sup>

## 2 3 - 6 - 3 クラックシール工

### (1) 定義

クラックシール工とは、路面に発生したひび割れ及び切削面で確認できたひび割れに加熱溶解した注入目地材を充填するものをいう。

## (2) 種別

クラックシール工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
A	ひび割れ部に加熱注入目地材を充填するもの

## (3) 材料

クラックシール工に使用する材料は、下表の規定によるものとする。

試験項目		規格値	試験方法
流れ		3mm以下	試験便覧A102
引張量		プライマー有10mm以上	
針入度（円錐針）		9mm以下	
弾性 (ボールコーン)	貫入量	0.5～1.5mm	
	復元率	60%以上	

## (4) 施工

クラックシール工の施工は、ひび割れ内のゴミ、泥等を清掃し、また、水分や湿気等がある場合は、乾燥後施工するものとする。シール材の注入時の温度は180～200℃の範囲内で施工するものとし、クラックシール工の充填完了の判断は、目視によりひび割れ内からの気泡が確認されなくなった時点とする。注入完了後は、監督員が特に指示した場合を除いて、表面温度が60℃程度に下がるまで養生するものとし、養生後監督員の指示に従って交通開放するものとする。なお、本施工は人力施工によるものとする。

## (5) 数量の検測

クラックシール工の数量の検測は、仕上り数量（kg）で行うものとする。

## (6) 支払

クラックシール工の支払は、前項の規定に従って検測した数量に対し1kg当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う施工面の清掃、準備、シール材の加熱・注入及び養生等クラックシール工の施工に要する材料・労力・機械器具など本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（4）	クラックシール工	
	A	kg

## 2 3 - 6 - 4 撤去工

### (1) 定義

撤去工とは目的物を施工するため、既設構造物の撤去を行うものをいう。

## (2) 種別

撤去工の単価表の項目の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	発生材の処理方法
アスファルト縁石	橋梁地覆部のアスファルト縁石を撤去し処分するもの。	本特記仕様書 1 6 - 2 に基づき処分（再資源化）
コンクリート縁石	橋梁地覆部のコンクリート縁石を撤去し処分するもの。	本特記仕様書 1 6 - 2 に基づき処分（再資源化）

## (3) 施工

撤去工の施工は、撤去物周囲の既設構造物等に損傷を与えないように慎重に行うものとする。また、撤去にあたってはその周囲に飛散し、他への影響を与えないように施工しなければならない。

## (4) 数量の検測

撤去工の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。

## (5) 支払

撤去工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う既設縁石工の背面の切断、本体の撤去、積込み、再資源化施設までの運搬、処分等撤去工の施工に要する労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（5）	撤去工	
	アスファルト縁石	m
	コンクリート縁石	m

## 2 3 - 7 交通規制工

### 2 3 - 7 - 1 交通規制工

#### (1) 種別

共通仕様書 1 9 - 3 - 2 「種別」に下記を追加する。

1 日で車線規制の規制回数（N）が 2 回以上の場合の規制延長（L）は、規制日毎の平均規制延長を規制延長（L）として、計上するものとする。



単価表の項目	内 容
連続車線規制 A	<p>設計図書に基づき走行及び追越車線規制の昼夜連続の規制を行うものをいい、次のことを含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜連続車線規制設置日及び撤去日当日に必要な機械賃料及び人件費等・車線規制（昼夜連続）設置日及び撤去日当日の日中分規制監視員費用（設置日及び撤去日当日の夜間規制監視員及び設置日以降の交通規制にかかわる費用は含まないものとする。）</li> </ul> <p>（平均規制延長：約 1.3 k m）</p>
連続車線規制 B	<p>設計図書に基づき走行及び追越車線規制の昼夜連続の規制を行うものをいい、次のことを含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜連続車線規制設置日及び撤去日当日以外の交通規制保守に必要な機械賃料等（交通規制監視員及び施工時の交通監視員は含まないものとする。）（平均規制延長：約 1.3 k m）</li> </ul>
連続ランプ閉鎖規制 A	<p>設計図書に基づきランプ閉鎖規制により、登別室蘭 I C（E ランプ）閉鎖規制を行うものをいい、次のことを含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜連続ランプ閉鎖規制設置日及び撤去日当日に必要な機械賃料及び人件費等・車線規制（昼夜連続）設置日及び撤去日当日の日中分規制監視員費用（設置日及び撤去日当日の夜間規制監視員及び設置日以降の交通規制にかかわる費用は含まないものとする。）</li> </ul>
連続ランプ閉鎖規制 B	<p>設計図書に基づきランプ閉鎖規制により、登別室蘭 I C（E ランプ）閉鎖規制を行うものをいい、次のことを含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜連続ランプ閉鎖規制設置日及び撤去日当日以外の交通規制保守に必要な機械賃料等（規制監視員及び施工時の交通監視員は含まないものとする。）</li> </ul>
ランプ閉鎖規制 A (Y)	<p>設計図書に基づき車線規制により、樽前 S A 上り線オンランプ、オフランプおよび下り線オフランプ閉鎖を行うものをいう。</p>
ランプ閉鎖規制 B (Y)	<p>設計図書に基づきランプ閉鎖規制により、苫小牧東 I C（C ランプ）閉鎖規制を行うものをいう。</p>

(2) 交通規制

工事内容別の交通規制工の種別は、下記のとおりとする。

単価表の項目	交通規制箇所	交通規制内の 主な工事内容	標準交通 規制時間※	摘要
路肩規制 Ⅰ×Ⅰ	登別室蘭ⅠＣランプ 第１橋（Ｅランプ）	・事前調査	日出～日没 （作業時間は概ね 半日程度）	
路肩規制 Ⅰ×Ⅰ（Ｙ）	苫小牧東 IC 橋 交差箇所	・伸縮装置取替	伸縮装置取替作業時	
車線規制 Ⅰ×Ⅰ×Ⅰ Ⅰ×Ⅰ×Ⅰ Ⅰ×Ⅱ×Ⅰ Ⅱ×Ⅰ×Ⅰ Ⅱ×Ⅰ×Ⅰ Ⅲ×Ⅰ×Ⅰ	舗装改良工等箇所	・舗装事前調査 ・舗装工 ・交通管理施設工 ・雑工	日出～日没 （事前調査を除く舗 装改良工等の作業時 間は概ね 10 時間）	
連続車線規制 A				
連続車線規制 B		—		
連続ランプ閉鎖規制 A	登別室蘭ⅠＣランプ 第１橋（Ｅランプ）	原則規制設置及び撤 去作業時間帯は日出 ～日没とする		
連続ランプ閉鎖規制 B		—		
ランプ閉鎖規制 A （Ｙ）	樽前 SA 上り線 オンランプ オフランプ 下り線 オフランプ	・舗装工 ・交通管理施設工	閉鎖約 30 分前～ 閉鎖解除まで （舗装改良工 作業時間は概ね 22:30～翌 4:30）	
ランプ閉鎖規制 B （Ｙ）	苫小牧東ⅠＣ （Ｃランプ）	・伸縮装置取替	閉鎖時間～ 閉鎖解除まで （伸縮装置取替 作業時間は概ね 22:30～翌 4:30）	

上表の規制時間とは、1回当たりとして検測する交通規制工のうち、規制設置開始から規制撤去完了までの時間である。

なお（ ）内は、積算上の概ねの作業時間を示す。この作業時間は交通規制設置完了後から撤去開始までの時間とする。なお、受注者の責によらず、交通規制箇所及び交通規制内の施工可能時間が変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

ランプ閉鎖規制 A（Y）については閉鎖約 30 分前から車線規制を設置完了し、閉鎖解除後は速やかに撤去を行うものとする。ランプ閉鎖規制 B（Y）については、ランプ閉鎖約 30 分前に苫小牧東 IC 内プラザ内で待機し、監督員の閉鎖指示後に速やかにランプの締め切りを行う。

### （３）交通規制の開始の延期及び解除

交通規制により著しい渋滞若しくはその恐れがある場合や、交通の危険及び異常気象時に、監督員より交通規制の開始の延期または交通規制の解除指示があった場合、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用は監督員と受注者とで協議し定めるものとする。また、渋滞等発生後、工程上交通規制の解除が困難な場合は、その措置について監督員と協議し対策を講ずるものとし、対策に要した費用は監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### （４）交通規制種別の変更

道路交通法第 80 条の規定に基づく協議により規制種別の変更が生じた場合は、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用は監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### （５）交通規制工実施報告書の提出時期について

受注者は、共通仕様書 19-3-3「交通規制計画」に規定する交通規制工実施報告書を翌月 10 日までに監督員に提出するものとする。

### （６）数量の検測

共通仕様書 19-3-4「数量の検測」に下記を追加するものとする。

①連続車線規制 A の数量の検測は、基地等での準備から規制設置、規制撤去から基地等に帰着後の跡片付けまで含め 1 回と検測する。

②連続車線規制 B の数量の検測は、連続車線規制 A で設置した車線規制の翌日から規制撤去日の前日までの日数を 1 日 1 回と検測する。そのため、規制設置及び撤去日は連続車線規制 B には含めないものとする。なお、連続規制日数に変更となる場合は監督員と協議し、監督員が認めた数量で支払いするものとする。

③連続ランプ閉鎖規制 A の数量の検測は、基地等での準備から規制設置、規制撤去から基地等に帰着後の跡片付けまで含め 1 回と検測する。

④連続ランプ閉鎖規制 B の数量の検測は、連続ランプ閉鎖規制 A で設置した規制の翌日から規制撤去日の前日までの日数を 1 日 1 回と検測する。そのため、規制設置及び撤去日は連続ランプ閉鎖規制 B には含めないものとする。なお、連続規制日数に変更となる場合は監督員と協議し、監督員が認めた数量で支払いするものとする。

(7) 支払

共通仕様書 19-3-5 「支払」に下記を追加するものとする。

	単価表の項目	検測の単位
19-(1)	交通規制工	
	連続車線規制 A	回
	連続車線規制 B	回
	連続ランプ閉鎖規制 A	回
	連続ランプ閉鎖規制 B	回
	ランプ閉鎖規制 A (Y)	回
	ランプ閉鎖規制 B (Y)	回

23-7-2 交通保安要員

(1) 種別

共通仕様書 19-4-2 「種別」に下記を追加する。

単価表の項目	内 容
規制監視員 A	供用中の高速道路の路面上における昼夜連続工事箇所において、夜間に配置する交通監視員をいい、一般通行車両及び工事関係者の安全を確保するための交通規制の監視、規制機材設置状況の監視・巡回等を行うもの。
規制監視員 B	供用中の高速道路の路面上における昼夜連続工事箇所において、昼間に配置する交通監視員をいい、一般通行車両及び工事関係者の安全を確保するための交通規制の監視、規制機材設置状況の監視・巡回等を行うもの。

なお、規制監視員 A と B の配置切替は 18 時及び 6 時とするが、この配置計画については、積算上の条件明示であるため、受注者が配置する時間帯と異なる場合においても、設計変更の対象としないものとする。

(2) 交通保安要員の配置

共通仕様書 19-4-2 及び本特記仕様書 23-7-2 「種別」に規定する交通保安要員の配置場所、配置人数、配置時間及び期間は下表のとおりとし、必要とする期間中、交通保安要員を配置しなければならない。なお、関連機関等との協議により、設計図書に変更が生じた場合は、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

単価表の項目	配置箇所	監視内容	配置 人数	配置期間	配置時間
交通監視員	車線規制及び 連続車線規制 作業箇所	舗装改良(打換工含む)切削作業	2名	作業中	必要時間帯
		舗装改良(打換工含む)舗設作業	2名		
		舗装改良作業以外	1名		
交通監視員(Y)	ランプ 閉鎖規制 A 及び作業箇所	車両誘導	1名		
		舗装改良切削 及び舗設作業	1名		
	路肩規制 I × 1 (Y) 及びランプ 閉鎖規制 B	交通規制監視の 交代要員	1名		
交通誘導警備員 A	国道規制部	舗装改良舗設作業	1名	作業中	必要時間帯
交通誘導警備員 B (Y)	ランプ 閉鎖規制 A 作業箇所	舗装改良切削 及び舗設作業	1名	作業中	必要時間帯
規制監視員 A	連続車線規制内	交通規制監視	2名 (1名)	連続車線 規制時	夜間規制監視 【12h 程度】
	連続ランプ閉鎖 規制内		1名 (1名)		
規制監視員 B	連続車線規制内		2名 (1名)		昼間規制監視 【12h 程度】
	連続ランプ閉鎖 規制内		1名 (1名)		

上表に示すうち、設置内容が作業監視とした交通監視員及び交通誘導員については、交代要員は施工時間により必要に応じて配置するものとし、規制監視員については、交代要員は必要とし、（ ）内の人数は交代要員を示す。交代を含む交通保安要員の配置人数について、上記及び設計図書に示す配置人数で支障がある場合は事前に監督員と協議し、配置人数を変更するものとする。この変更費用については、監督員と協議するものとする。

### (3) 交通監視員及び規制監視員の配置

交通規制内に配置する交通規制監視を目的とした交通監視員(必要な交代要員費用を含む)の交代要員については、交通規制工(路肩規制 I × 1 (Y) 及びランプ閉鎖規制 B 以外)に含み別途計上しないものとし、作業毎に別途上表に示した交通監視員のみ計上する。

ただし、連続車線規制及び連続ランプ閉鎖規制については単価に施工初日と最終日昼間の規制監視員は計上しているが、1 日目の夜間から最終日前日の夜間の規制監視員を含まないため、作業毎の交通監視員とともに規制監視員を別途計上するものとする。連続車線規制及び連続ランプ閉鎖規制についても作業毎に上表に示した交通監視員を配置するものとする。

なお、規制監視員の配置は車線規制実施中昼夜に関わらず常時 1 名又は 2 名配置するものとする。

(4) 交通安全要員計画について

受注者は、交通安全業務を遂行するに十分な能力を有する交通安全要員を配置しなければならない。

(5) 交通安全要員実施報告書の提出時期について

受注者は、共通仕様書 1 9 - 4 - 3 「交通安全要員計画」に規定する交通安全要員実施報告書を翌月上旬までに監督員に提出するものとする。提出する報告書に添付する人数の根拠については、受注者が押印等の確認を行った伝票等を添付するものとする。

(6) 支払

共通仕様書 1 9 - 4 - 5 「支払」に下記を追加するものとする。

	単価表の項目	検測の単位
1 9 - (2)	交通安全要員	
	交通監視員 (Y)	人・日
	交通誘導警備員 B (Y)	人・日
	規制監視員 A	人・日
	規制監視員 B	人・日

## 2 4 . 割掛対象表の項目に示す工事の内容

割掛対象表の項目に示す工事の内容は、共通仕様書第 1 章総則「表 1 - 3 割掛対象表の項目に示す工事の内容」によるほか、次のとおりとする。なお、これに要する費用は関連する単価表の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

割掛対象表の項目名称	工事の内容
はく離抵抗試験費 A	アスファルト混合物に対して行うはく離抵抗性試験（試験法 2 4 4）に要する費用をいう。
試験舗装費	高機能Ⅱ型用混合物、橋梁レベリング層用混合物の試験舗装に要する費用をいう。
クラック調査費	土工部の路面ひび割れ箇所等を近接目視により調査し、ひび割れ深さを確認するための供試体採取に要する費用をいう。 ただし、調査に要する交通規制工及び交通安全要員の配置費用については、別途計上するものとする。
レベリング層厚さ調査費	橋梁レベリング層用混合物の骨材最大粒径を決定するため、供試体採取により既設橋面舗装厚さを調査する費用をいう。 ただし、調査に要する交通規制工及び交通安全要員の配置費用については、別途計上するものとする。

## 25. 補足事項

### 25-1 設計図書の変更及び追加について

次に示す作業については、現在関係機関と協議中であり、関連する工事の設計内容を変更又は追加する可能性があるため、受注者は監督員と緊密な連絡を取るとともに、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとし、これらに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

- (1) 快適トイレを導入可能な場合は、仕様、費用について監督員と協議する。
- (2) 路面性状調査及び現地調査結果により、舗装補修範囲を変更及び追加する場合がある。
- (3) 現地のクラックの状況により打換工の数量を変更する場合がある。
- (4) 萩野PAの上下線について、大型駐車マスの補修を追加する場合がある。
- (5) コンクリート除去工の設計数量については非破壊調査により、算出していることから、既設舗装撤去後に監督員の打音検査等により、コンクリート除去工及び床版上面の断面修復工の数量が変更する場合がある。
- (6) ランプ閉鎖規制時の広報対策について追加をする場合がある。
- (7) 苫小牧中央IC～苫小牧西IC間において、舗装以深の空洞補修を追加する場合がある。
- (8) 苫小牧東IC～新千歳空港IC間において、路肩舗装部の通信管路工を追加する場合がある。
- (9) 苫小牧東IC料金所5レーンのコンクリート舗装版について、冬季明けの損傷状況によりコンクリート舗装版補修を追加する場合がある。
- (10) FWD調査結果により、路盤の補修を追加する場合がある。
- (11) ランプ閉鎖規制時間を変更する場合がある。
- (12) 既設橋面舗装厚さ調査結果により、橋梁レベリング層用混合物の骨材最大粒径について変更する場合がある。
- (13) 関係機関との協議に伴う交通規制工の日時、規制方法の変更をする場合がある。

### 25-2 工事記録情報の作成及び提出について

受注者は、共通仕様書1-51-2「工事記録情報」の規定に従って、「工事記録収集システム」へデータ入力完了後、「工事記録情報完了届」をしゅん功届提出予定の2週間程度前までに監督員に提出し、その後入力データの照査を受け、「工事記録情報チェック結果票」にて照査結果の通知を受けるものとする。また、照査の結果修正が生じた場合は、監督員の指示に従い速やかに修正を行うものとする。

工事記録収集システムに関する問い合わせ先は別途監督員より通知する。

### 25-3 車両制限令を超える車両の運行に関する通行許可の確認結果の提出

受注者は、共通仕様書1-62「交通安全管理」における確認については、許可証の原本やオンライン申請においてはダウンロードした電子ファイルデータで確実に確認し、その確認結果を監督員に提出するものとする。

## 2 5 - 4 緊急時の協力業務

本工事期間中に北広島管理事務所管内の高速道路において、災害等が発生した場合は監督員の指示に従い災害復旧に協力するものとする。これに要する費用については、別途監督員と受注者で協議するものとする。

## 2 5 - 5 間接工事費の変更

### 2 5 - 5 - 1 対象となる項目

本工事は、間接工事費のうち「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終設計変更時点で設計変更する試行工事である。

営繕費：労働者の送迎費、宿泊費、借上費

（宿泊費、借上費については労働者確保に係わるものに限る）

労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤に要する費用

なお、上記に関連し発生した間接工事費について、監督員が必要と判断した場合、その費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### 2 5 - 5 - 2 工事費構成内訳費

発注者は、契約単価合意の時（単価協議時）に本工事の当初積算における共通仮設費及び現場管理費に対する実績変更対象費の割合を工事費構成内訳書にて提示するものとする。

### 2 5 - 5 - 3 間接工事費計画書の提出

受注者は、間接工事費の増加費用を請求する予定がある場合、工期開始の日から 1 4 日以内に、前項で示された割合を参考にして実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した間接工事費計画書（様式－6）を作成し、監督員へ提出するものとする。なお、工期開始の日から 1 4 日以内に間接工事費計画書の提出がなかった場合は、間接工事費の増加費用の請求は行えないものとする。

### 2 5 - 5 - 4 間接工事費の増加費用の協議

- （1）受注者は、最終契約変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえた増加費用を請求する場合は、間接工事費の増加費用に関する協議書（様式－7）〔変更間接工事費計画書（様式－7（別添））及び実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）〕を監督員に提出し協議するものとする。
- （2）発注者は、受注者からの請求があった場合においては、監督員が算定した増加費用の額を記した増加費用の協議書をもって、受注者と協議する。



- (3) 間接工事費の増加費用の額（増加費用に係る一般管理費等を含む）の協議は、監督員が間接工事費増加費用見積方通知書により、受注者に対して見積書を監督員に提出するように通知するものとし、受注者はその通知に従い間接工事費増加費用見積書（様式－８）を監督員に提出し協議するものとする。
- (4) 間接工事費の増加費用の額について、監督員からの間接工事費増加費用の負担額協議書により、受注者は同意書（様式－９）を監督員に提出するものとする。なお、協議開始の日から２８日以内に協議が整わない場合には、監督員が定め、受注者に通知する。

#### ２５－５－５ 受注者の責めに帰す事由の増加費用

受注者の責めによる工事工程の遅れ等、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については設計変更の対象としない。

#### ２５－５－６ 実績変更対象費に基づく間接工事費の増加費用の算定

実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合の増加費用の算定については、次のとおりとする。

- (1) 共通仮設費率分は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－６）に記載された共通仮設費率分の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (2) 現場管理費は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－６）に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (3) 間接工事費の増加費用は、一般管理費等の費用を含む。
- (4) なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。

#### ２５－５－７ 虚偽申告

受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。

#### ２５－５－８ 疑義

疑義が生じた場合は、監督員の協議を行うものとする。

#### ２５－６ 設計変更ガイドライン

工事の変更等においては、東日本高速道路㈱が制定・公表している「土木工事請負契約における設計変更ガイドライン」（当社ホームページに掲載  
[https://www.e-nexco.co.jp/assets/pdf/bids/stipulation/engineering\\_works2307a.pdf](https://www.e-nexco.co.jp/assets/pdf/bids/stipulation/engineering_works2307a.pdf)）を参照のこと。

#### 2 5－7 保険の付保

保険の付保については、共通仕様書 1－5 5－1 「保険の付保」によらず、次のとおりとする。  
契約書第 5 7 条に規定する火災保険、建設工事保険、その他の保険（賠償責任保険は除く）の付保は任意とし、賠償責任保険（支払限度額 1 億円以上）は付保しなければならない。

#### 2 5－8 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和 5 年 1 0 月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通仕様書「1－2 用語の定義」に定める「確認」及び「1－3 0 検査及び立会い」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の工事等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。

遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、工事着手前に監督員と協議し定めるものとする。

文書番号  
年 月 日

東日本高速道路株式会社 北海道支社  
北広島管理事務所長 殿

会社名  
代表者

### 不動産貸付申請書

(本契約等) 第○条第○項の規定に基づき、貴社所有の不動産を下記のとおり貸付けて  
いただきたく、申請いたします。

### 記

1. 不動産の種類（土地、建物、倉庫、車庫、駐車場所 等）
2. 不動産の所在地
3. 不動産の使用目的
4. 必要面積
5. 貸付希望期間
6. その他
7. 添付書類

○本契約等の契約書等写し

以 上

令和 年 月 日

監督員

殿

受注者

現場代理人

取得報告書

(工事名)

標記工事について、下記のとおり現場閉所の実績を報告いたします。

## 記

項 目	内 容	日 数	備 考
対象期間	①令和○年○月○日 ～ 令和○年○月○日 着工日 工事完成日	日間	
	②年末年始（12/29～1/3）及び夏期休暇（3日）の期間	日間	
	③工事一時中止により工事全体を中止する期間	日間	
	④工場製作のみを実施している期間	日間	
	⑤冬期休止期間等特記仕様書に規定する発注者が工事全体 を施工対象外としている期間	日間	
	対象期間（A）＝①－②－③－④－⑤	日間	
現場閉所日	⑥土曜・日曜・祝日に現場閉所を実施した日数	日間	
	⑦平日の降雨・降雪等により現場閉所した日数	日間	
	現場閉所日数（B）＝⑥＋⑦	日間	
現場閉所率	現場閉所率＝B／A	%	

※監督員が閉所日を確認できる資料を求めた際には、受注者はこれに応じるものとする。

令和      年      月      日

東日本高速道路株式会社    北海道支社（事務所）  
支社長（所長）                      殿

住所  
会社名  
代表者名

---

## 工事費構成内訳書及び工程表の提出について

（工事名）

---

標記工事について、工事費構成内訳書及び工程表を作成いたしましたので、提出します。

様式－ 3 （別添）

工事費構成内訳書

(工事名)

工種・種別・細別	単位	数量	金額	摘要
単価表の合計金額	式	1		
諸経費①	式	1		
諸経費②	式	1		
工事価格				
消費税及び地方消費税相当額	式	1		
工事費計				
工事価格のうち、現場労働者に関する健康保険、厚生年金保険及び雇用保険の法定の事業主負担額				

※必要に応じて法定福利費の算出根拠を添付すること。  
※諸経費は該当する項目のみ記入すること。

工 程 表

工事名)

契約番号

工事区間  
自)

受注者

工 期  
自) 令和 年 月 日

至) 令和 年 月 日 ( 日間)

先月まで (最上に計画出来高%)

今月分 (最下に実施出来高%)

項目	数量	単位	令和○年度												令和△年度												摘要
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
																										100%	
																										90%	
																										80%	
																										70%	
																										60%	
																										50%	
																										40%	
																										30%	
																										20%	
																										10%	
																										0%	
全 体																											

延べ労働時間(月毎) 単位:h																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

冬季休止期間 ○月○日から○月○日

令和 年 月分工事工程報告

(工事名)

受 注 者  
現 場 代 理 人  
契 約 金 額

工期 自) 令和 年 月 日 ( 日間)  
至) 令和 年 月 日

項 目	設計数量	契約金額 (円)	換算率 (%)	累 計 出来高 (%)	前月迄 出来高 (%)	今 月 出来高 (%)	摘 要
全 体							



令和    年    月    日

監督員                                  殿

受注者  
現場代理人

間接工事費計画書の提出について

(工事名) \_\_\_\_\_

標記工事について、特記仕様書「請負代金額変更の特例」に基づき下記のとおり提出します。

記

【間接工事費計画書】				
費目		費用	内容	計上額（円）
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げによる地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用	
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用	
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）	
	小計			
	現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当
賃金以外の食事、通勤等に要する費用			労働者の食事補助、交通費の支給	
小計				
合計				

以 上



変更間接工事費計画書

（工事名）

（円）

費目		費用	内容	当初計上額	変更計上額	差額
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げにようする地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用			
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用			
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）			
	小計					
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当			
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給			
	小計					
合計						

※ 実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）を合わせて提出すること。

令和      年      月      日

監督員                      殿

受注者  
現場代理人

間接工事費の増加費用見積書

(工事名) \_\_\_\_\_

令和    年    月    日付け    号をもってご通知のあった標記については、  
下記のとおり見積りいたします。

記

間接工事費の増加費用 (一般管理費等を含まない額)	円
上記に係る一般管理費等	円
合計	円

以      上

令和 年 月 日

監督員

殿

受注者  
現場代理人

間接工事費の増加費用同意書

(工事名)

令和 年 月 日付け 号で協議のありました間接工事費の増加費用  
については同意致します。

以 上



## 創意工夫・社会性等に関する実施状況

工事名			受注者名	
項目	評価内容	実施内容		
<input type="checkbox"/> 創意工夫 自ら立案実施した創意工夫や技術	<input type="checkbox"/> 施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工に伴う器具、工具、装置等の工夫</li> <li>・ コンクリート二次製品等の代替材の利用</li> <li>・ 施工方法の工夫、施工環境の改善</li> <li>・ 仮設備計画の工夫</li> <li>・ 施工管理の工夫</li> <li>・ I C T（情報通信技術）の活用等</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> 品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土工、設備、電気の品質向上の工夫</li> <li>・ コンクリートの材料、打設、養生の工夫</li> <li>・ 鉄筋、コンクリート二次製品等使用材料の工夫</li> <li>・ 配筋、溶接作業等の工夫等</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> 安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全教育・講習会・パトロール等の工夫</li> <li>・ 仮設備の工夫</li> <li>・ 作業環境の改善</li> <li>・ 交通事故防止の工夫</li> <li>・ 環境保全の工夫</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> カーボンニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C O 2 排出量の削減に寄与</li> <li>・ C O 2 の吸収に寄与</li> <li>・ C O 2 の発生を低減して製造された資材等の活用</li> </ul>		
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や住民に対する貢献	<input type="checkbox"/> 地域への貢献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺環境への配慮</li> <li>・ 現場環境の周辺地域への調和</li> <li>・ 地域住民とのコミュニケーション</li> <li>・ 地域生活に密着した貢献活動等の実施</li> <li>・ 災害時など地域への支援・行政などによる救援活動への協力</li> <li>・ 任意の使用範囲におけるコンクリートへの混合セメントの使用（使用可能数量において、50%以上使用した場合）</li> <li>・ 国土交通省による認定を受けた低炭素型建設機械の使用等</li> </ul>		

1. 該当する項目の□にレマーク記入。
  2. 具体的内容の説明として、写真・図面等を説明資料に整理。
  3. 提出可能な項目数は、10項目までとする。
- （注）Kcube2による提出とする。

## 低速プロファイラの運用に関する補足資料

### 1. 適用範囲

本資料は、舗装工事の出来形基準「平たん性」の測定に際し、「低速プロファイラによる路面のIRI測定方法」（試験法251）に基づき使用する低速プロファイラの性能に係る事前確認方法について記載する。

### 2. 用語の定義

本補足資料で使用する用語の定義は、以下のとおりとする。

#### （１）使用有効期間

NEXCO試験方法 付属書001「路面プロファイラの性能確認方法」に規定する性能（距離測定精度、IRI精度評価値およびプロファイラ性能評価値）を保持するために、低速プロファイラ製造会社が定めた一定期間をいう。

#### （２）性能

NEXCO試験方法 付属書001「路面プロファイラの性能確認方法」に規定する、距離測定精度、IRI精度評価値およびプロファイラ性能評価値をいう。

#### （３）性能確認

NEXCO試験方法 付属書001「路面プロファイラの性能確認方法」に基づき、測定および結果の整理を行い、性能（距離測定精度、IRI精度評価値およびプロファイラ性能評価値）を確認するものをいう。

#### （４）校正試験

低速プロファイラ製造会社が行う、低速プロファイラの清掃・消耗品の交換・搭載されている各計測機器の校正に対し、低速プロファイラが正常に動作するか確認するための試験をいう。

#### （５）校正

低速プロファイラに搭載されている各計測機器の示す値と、基準値との誤差を確認し、各計測機器を調整して誤差の修正を行うものをいう。

#### （６）性能確認調査

低速プロファイラ製造会社が、低速プロファイラの製造時、性能に影響する改造時および校正試験時に行う性能確認について、性能確認の方法および結果の確認を行うものをいう。



### 3 使用機器の事前確認

舗装施工管理要領「Ⅱ 建設工事関係1-5出来形基準」および「Ⅲ 補修工事関係1-5出来形基準」に規定する「平たん性」の測定に用いる低速プロファイラについては、NEXCO試験方法 付属書001「路面プロファイラの性能確認方法」に基づき確認した性能（距離測定精度、IRI精度評価値およびプロファイラ性能評価値）を満足した機器であることを事前に確認するものとする。

#### 3.1 使用する機器

受注者は、舗装工事に使用する低速プロファイラについて、使用に先立ち、当該工事の工期を踏まえて機器の使用有効期間内であることを確認のうえ、故障・損傷がないものを使用するものとする。また、使用有効期間を超過する機器および故障・損傷のある機器については、低速プロファイラ製造会社による較正試験および性能確認を行うものとする。

#### 3.2 使用確認願の提出

受注者は、低速プロファイラ使用確認願（様式-1）を監督員へ提出するものとする。

なお、使用確認願には、低速プロファイラの製造会社名および機種種の諸元（機種型式、製造番号）を記し、低速プロファイラの製造会社による較正試験結果、性能確認結果（様式-2）の写しを添付するものとする。

#### 3.3 低速プロファイラ製造会社（販売者）の責務

- 1) 低速プロファイラ製造会社は、NEXCO 試験方法 付属書 001「路面プロファイラの性能確認方法」に基づき、製造時、性能に影響する改造時、較正試験時に性能確認を実施するものとし、低速プロファイラの性能を保持するため、使用有効期間を設けるものとする。
- 2) 低速プロファイラ製造会社は、NEXCO が行う性能確認調査に対して、協力しなければならない。  
この場合、NEXCO は具体的な内容等を事前に低速プロファイラ製造会社に通知するものとする。
- 3) 修理時や較正時に、むやみに改造を行ってはならない
- 4) やむを得ない改造が必要な場合は、監督員若しくは NEXCO 総研に確認するものとする。

様式-1

令和      年      月      日

殿

受注者  
現場代理人

印

## 低速プロファイラ使用確認願

工事名)

標記工事について、下記のとおり低速プロファイラを使用したいので、確認願います。

記

1. 低速プロファイルの製造会社名および機種名  
製造会社名) ○○  
機種型式) ○○  
製造番号) ○○
2. 添付書類  
・製造会社の較正試験結果および性能確認結果(写) 各1部

以上

様式ー2

試験法ー付属書 001	路面プロファイラの性能確認方法
-------------	-----------------

製造会社名	機種型式	製造番号
測定年月日	測定者	舗装種別

IRI精度評価値		試験プロファイル														平均	プロファイラ性能評価値		試験プロファイル														平均
		往路						復路						往路						復路													
		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	1回目	2回目				3回目	4回目	5回目	6回目											
基準プロファイル (移植性性能値)	水準																																
試験プロファイル (反復性性能値)	往路	1回目																															
		2回目																															
		3回目																															
		4回目																															
		5回目																															
		6回目																															
	復路	1回目																															
		2回目																															
		3回目																															
		4回目																															
		5回目																															
		6回目																															

距離測定精度		距離測定			
		延長	誤差量 各回	誤差率（%） 各回	精度（%） 各回
基準長					
測定長	往路	1回目			
		2回目			
		3回目			
		4回目			
		5回目			
		6回目			
	復路	1回目			
		2回目			
		3回目			
		4回目			
		5回目			
		6回目			
全回平均					

IRI精度評価値	=	移植性性能値	×	反復性性能値
=			×	
=				
プロファイラ性能評価値	=	移植性性能値	×	反復性性能値
=			×	
=				
距離測定精度	=	1	－	距離測定誤差
=			－	
=				

試験法一付属書 001		路面プロファイラの性能確認方法			
製造会社名	〇〇〇	機種型式	〇〇〇	製造番号	〇〇〇
測定年月日	〇〇〇	測定者	〇〇〇	舗装種別	〇〇〇

IRI精度評価値		試験プロフィール													平均	プロファイル性能評価値		試験プロフィール													平均			
		往路						復路						往路						復路														
		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	1回目				2回目	3回目	4回目	5回目	6回目												
基準プロフィール (移植性性能値)		水準		0.970	0.980	0.990	0.970	0.980	1.000	0.970	0.980	0.990	0.970	0.980	1.000	0.982	基準プロフィール (移植性性能値)		水準		0.951	0.960	0.970	0.951	0.960	0.970	0.951	0.960	0.980	0.962				
試験プロフィール (反復性性能値)	往路	1回目		0.990	0.990	1.000	0.990	0.970								0.988	試験プロフィール (反復性性能値)	往路	1回目		0.970	0.960	0.980	0.970	0.951						0.968			
		2回目			0.990	0.990	1.000	0.990																										
		3回目				0.980	0.990	0.990																										
		4回目					0.990	0.980																										
		5回目						0.990																										
		6回目																																
	復路	1回目									0.990	0.980	1.000	0.990	0.970	0.988	試験プロフィール (反復性性能値)	復路	1回目							0.970	0.960	0.980	0.970	0.951	0.968			
		2回目										0.990	0.990	1.000	0.990										0.970	0.970	0.980	0.970						
		3回目											0.980	0.990	0.990											0.960	0.970	0.970						
		4回目												0.990	0.980												0.970	0.960						
		5回目													0.990												0.990	0.970						
		6回目																	0.990									0.990	0.970					

距離測定精度		距離測定				
		延長	誤差量 各回	誤差率（％） 各回	精度（％） 各回	
基準長			240.000			
測定長	往路	1回目	240.212	0.212	0.09%	99.91%
		2回目	240.488	0.488	0.20%	99.80%
		3回目	240.439	0.439	0.18%	99.82%
		4回目	239.769	-0.231	-0.10%	100.10%
		5回目	240.223	0.223	0.09%	99.91%
		6回目	240.250	0.250	0.10%	99.90%
	復路	1回目	240.512	0.512	0.21%	99.79%
		2回目	239.789	-0.211	-0.09%	100.09%
		3回目	240.334	0.334	0.14%	99.86%
		4回目	239.224	-0.776	-0.32%	100.32%
		5回目	240.195	0.195	0.08%	99.92%
		6回目	240.223	0.223	0.09%	99.91%
全回平均				0.06%	99.94%	

IRI精度評価値	=	移植性性能値	×	反復性性能値
	=	0.982	×	0.988
	=	0.970		(97.0%)
プロファイル性能評価値	=	移植性性能値	×	反復性性能値
	=	0.962	×	0.968
	=	0.931		(93.1%)
距離測定精度	=	1	－	距離測定誤差
	=	1	－	0.06%
	=	99.94%		